

九大広報

KYUSHU UNIVERSITY CAMPUS MAGAZINE

10

2017 Oct.

vol.108

【特集】
共創学部
2018年4月スタート

FRONT RUNNER

好蟻性昆虫研究のパイオニア
世界各地から数々の新種昆虫を発見!
九州大学 総合研究博物館 准教授 丸山 宗利

歴史散策

KYUDAI HISTORY STROLL

16

九州大学松浜厚生施設 (旧学生食堂)

箱崎キャンパスの煉瓦造(一部タイル張)境界柵の向こう側にある建物ですが、同窓生で何度か訪れた方もいらっしゃるでしょう。木造2階建の瀟洒なこの洋館は、もともと文科学生を迎える、総合大学としての陣容を整えた九州帝国大学の学生食堂として1928(昭和3)年に竣工しました。倉田建築課長(当時)が洋行中であったため、設計は小原節三技師が担当しました。戦後は学生寮や生活協同組合事務所へと用途を変えながら、箱崎の町とともに学生の成長を見守り続けています。

市原猛志(大学文書館 協力研究員)



外観は竣工当時からほとんど変わらない。2階の窓間に、一部白色タイルを使用。

目次

36	33	32	31	30	21	19	17	16	11	07	02
● ● ● ● ● ● 農学部同窓会 定例会議・さよなら「箱崎農学部」同窓会	● ● ● 法学部東京同窓会 新卒者歓迎会	● 地質学科同窓会(能古会) 東京支部	● 留学生体験記	● 世界のキャンパス	● KYUDAI TOPICS 受賞のお知らせ	● 跳動 将棋部	● Close up 山川賞受賞で生まれた人との出会い	● MUSEUM REPORT	● 記者会見レポート	丸山宗利	Front Runner 九州大学総合研究博物館准教授
● 関西同窓会 夏季ビアパーティー	● 経済学部同窓会福岡支部総会・特別講演会・懇親会	● 薬友会関東支部総会・講演会・懇親会	● 九州大学基金	● 世界のキャンパス							【特集】 2018年4月スタート
●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●

平成29年7月九州北部豪雨災害について

このたびの「平成29年7月九州北部豪雨災害」において犠牲になられた方々に衷心よりお悔やみ申し上げますとともに、被災をされた皆さまには心よりお見舞い申し上げます。

■編集・発行:九州大学広報室 〒819-0395福岡市西区元岡744

■TEL:092-802-2130 ■FAX:092-802-2139

■E-mail:koho@jimu.kyushu-u.ac.jp

■Webサイト:<http://www.kyushu-u.ac.jp/>

■印刷:株式会社ミドリ印刷 ■編集協力・取材:株式会社チカラ

■撮影:岡本正人、加来和博、中西ゆき乃、平川雄一郎

■デザイン:才原貴生(Office Chameleon)

○お読みになつてのご感想やご意見をお待ちしています。

○本誌記事を転載する場合は、事前に九州大学広報室までご連絡願います。

○「九大広報」は九州大学Webサイトでもお読みいただくことができます。

○次号は、2018年1月発行予定です。

「違い」を乗り越える力を。

特集

学びの枠を、超えろ。

地球環境問題、枯渇するエネルギー資源、

宗教・民族の対立、

テロや世界規模での感染症の流行。

いま私たちの目の前に生じている問題の多くは、

さまざまな要因が複雑に絡み合い

どれか一つの学問分野で解決するのは困難です。

そんな時代に、大学に求められることは?

九州大学は、世界へ向けて一つの答えを示します。

共創学部

現在を、
未来を、
共に創る

それは、学問分野の枠を超えて、幅広い知識と

高度なコミュニケーション能力を養う例のない新学部、

「九州大学共創学部」の設置です。

広い視野と知識で課題を適切に把握し、

他の人の知見や能力を

柔軟に受け入れ、活かす。

豊かな言語力で国境を超えた

プロジェクトを動かす。

専門性や人の間にある壁を

軽々と超えて社会に貢献し、

美しい未来を描いていく人材を育成します。

message

総長メッセージ

九州大学の新たな挑戦である共創学部の設置が実現に至ったことは、グローバル社会を牽引するリーダー育成を掲げる本学として、非常に意義深いものであると考えます。

100年以上の歴史を持つ総合大学である本学が総力を結集し、複雑化・多様化するグローバル社会において、多様な人々との協働から異なる観点や学問的な知見の融合を図り、共に構想し、連携して新たなものを創造する「共創」をコンセプトとして、新たなイノベーションの創出を担う人材の育成に取り組んで参ります。個別の学問だけでは解決することが困難であり、複雑に錯綜した課題に挑戦する有為な人材を輩出していくために、最高水準の研究・教育拠点として、今後ともより一層、教育・研究の充実を図って参ります。



九州大学総長
久保 千春 Chiharu Kubo

学部長(候補者)メッセージ

九州大学共創学部は、従来の学問方法のトレーニングを中心とした人材養成ではなく、人類が直面している地球規模の課題を解決できる新たな高度人材養成を行うことを目的に設置されます。問題意識を明確に持ち、世界が直面する課題解決に取り組みたいと考える方の受験を期待します。

共創学部は、日本におけるまったく新しいタイプの学部となります。入学される皆さんには、私たち教員と一緒にになって、素晴らしい学部を創り上げることにチャレンジして欲しいと思います。共創学部で学ぶことにより、高い専門性と違いを乗り越えられる高度なコミュニケーション能力、そして様々な人々と協働する力を身につけて、明日の世界を共に創り上げていきましょう。



教授
小山内 康人 Yasuhito Osanai
学位:理学博士
専門分野:地質学・岩石学

育成する人材像

For Global Life

「国際的・地球的課題に対する解決策をコーディネートして、世界に効果的に情報発信できる実務家」

For Changing Society

「国際社会の課題を解決するために、新しい社会の仕組みや価値の創出をデザインする専門家」

For Future Science

「文理を超えた学際的知見を修得し、国内外大学院に進学する、諸科学の境界・学際的領域の研究者」

共創的課題解決力

九州大学が全ての学生に求める「能動的学習能力」を礎にして、「共創」のために必要な態度・能力となる「課題構想力」、「協働実践力」、「国際コミュニケーション力」を養成します。これらの態度・能力の修得を通して「共創的課題解決力」の獲得を目指します。

課題構想力

現実の問題に対応するため適切に課題を設定し、既存の学知を組み合わせて解決策を模索する力。

協働実践力

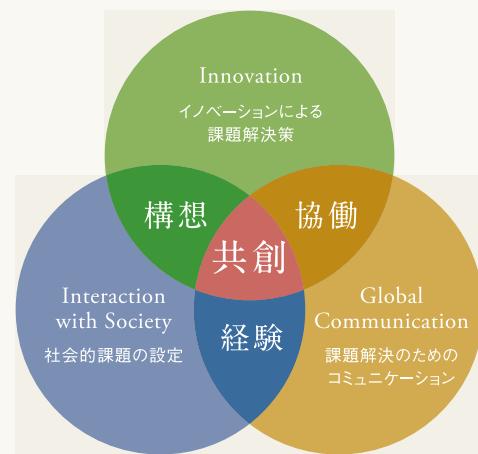
構想した課題解決策について他者と議論し、他者の知見や能力をも組み合わせる形で協働し、実現可能な解決策を創造する力。

国際コミュニケーション力

課題が生じている現場で、解決策の実行のために多くの人にその内容を説明し、理解と協力を得る力。

共創的課題解決力

「共創」の理念を実現するために必要な、「能動的学習能力」、「課題構想力」、「協働実践力」、「国際コミュニケーション力」の4つの力を総合して実際の課題解決に取り組む力。



教員紹介

共創学部ホームページに、全教員(74人:H29.8現在)の情報を掲載しておりますのでご覧ください。



〈教授〉
副島 雄児
Yuji Soejima

学位：理学博士
専門分野：物性物理学



〈教授〉
舩木 政彦
Masahiko Kaburagi

学位：博士（法学）
専門分野：政治思想史



〈教授〉
ローレンス ヨハン
Lauwereyns Johan

学位：Ph.D.
専門分野：認知神経科学



〈教授〉
溝口 孝司
Koji Mizoguchi

学位：Ph.D.
専門分野：考古学



〈教授〉
荒谷 邦雄
Kunio Araya

学位：博士（理学）
専門分野：昆虫学、
生物体系学



〈准教授〉
内田 諭
Satoru Uchida

学位：博士（学術）
専門分野：言語学



〈准教授〉
鬼丸 武士
Takeshi Onimaru

学位：博士（地球研究）
専門分野：比較地域研究、
政治史



〈准教授〉
仙田 量子
Ryoko Senda

学位：博士（理学）
専門分野：地球化学



〈助教〉
足立 達朗
Tatsuro Adachi

学位：博士（理学）
専門分野：地質学、
岩石学、考古学

文系・理系の枠を超えた体系的なカリキュラムを通じて、 共創的課題解決力の獲得を目指します。

課題に応じ自ら必要なことを学ぶという態度・志向性を身につけるために、学生自らがカリキュラムをデザインし、履修するアクティブ・ラーニング(能動的な学習)をもとにした教育を行います。全学共通である学びの「幹」をつくる基幹教育科目と、それを基盤とした専攻教育科目からなる教育課程です。また、徹底した語学教育によって、実践的に活用できる言語能力の獲得も目指します。

1年次

2年次

3年次

4年次

幅広い学問分野の知識や技能と、学問を課題解決に活かすアクティブな態度と思考法を獲得

課題解決の方法等を、複数の学問分野の知識や技能を組み合わせて構想

●高年次基幹教育科目

専攻教育

基幹教育

九州大学で学ぶ全ての学部学生が履修します。「ものの見方・考え方・学び方」を学び、深い専門性や豊かな教養へとつながる知識、技能を身につけます。共創学部では言語文化科目に「英語インテンシブコース」を設け、英語の運用能力の向上に重点を置く徹底した英語教育を行います。

課題協学科目

幅広い視野と考え方を修得するとともに、文系・理系学部混成のグループで議論し合う協働学習により、思考能力を高め、他者と協力しながら自主的に学習を進めることのできる姿勢を身につけます。

- 基幹教育セミナー
- 課題協学科目
- 言語文化科目
- 文系デジブリーン科目
- 理系デジブリーン科目
- サイバーセキュリティ科目
- 健康・スポーツ科目
- 総合科目

共通基礎科目

現代社会が直面している問題に対して、自ら課題を設定しその解決に至るアプローチを「構想」し、異なる専門や技能を持つ多様な人々と「協働」していくための基礎的な知識や技能を学びます。

エリア横断科目

共通基礎科目で身についた知識・技能の向上を図り、課題解決のために方法として活用できるようにします。

共創基礎プロジェクト

「課題協学科目」で培った姿勢や技能の向上を図るとともに、「構想」・「協働」・「経験」という学びのプロセスを繰り返すサイクルを作りため、具体的な課題にグループ討論やチームで取り組む協働学習を行います。課題解決に必要な手法や技法、自らの知識の活かし方、自ら他者の知識の組み合わせ方や結論を得る上で必要な合意形成等を学ぶとともに、将来にわたり共創の理念を実現させるためにもっとも重要な態度と志向性を涵養します。

共創プロジェクト

「共創基礎プロジェクト」で培った態度や技能の向上を図るとともに、「共通基礎科目」や「エリア基礎科目」などの学習内容を活かし、課題の発見から課題解決に至るまでのアプローチの方法を、協働学習を通じて学びます。

ディグリープロジェクト (卒業研究)

学生自らが課題を設定し、これまでに学んだ知を組み合わせて、課題解決のための新しい知や価値の創出に取り組みます。課題の解決策を異なる2つの学問分野からアプローチし、課題の解決方法等を卒業論文等にまとめ、英語で発表します。

エリア基礎科目

課題解決のための着想や、多様な学問のアプローチを学ぶため、社会的課題が存在する領域として設定した「人間・生命」「人と社会」「国家と地域」「地球・環境」の4エリアに関する基礎的な知識・技能を修得します。

エリア発展科目

課題の解決策の探究のために必要となる、4エリアに関する高度な知識・技能を修得し、その向上を図ります。

経験科目

海外大学への一定期間の留学経験等により、異文化への理解を高めるとともに言語能力やコミュニケーション力を向上させます。
留学前には危機管理などの基礎的な知識を学び、留学後には留学先での経験等に関するレポートの提出、発表を行います。

必要に応じて他学部等の科目を履修

共創学部の入試について

九州大学は、入学志願者の能力・意欲・適性等を多面的・総合的に評価する全学的な入試改革を推進しています。この方針に基づいて、共創学部では「知識を問う入試から、能力を見極める入試への転換」を掲げ、志願者の能力を複数の観点から見極めるために、本学部が掲げるアドミッション・ポリシーに基づいて、次のような特色をもつ入学者選抜を実施します。(アドミッション・ポリシーは共創学部ホームページをご覧ください。)

- | | |
|------------|---|
| 1 4種類の選抜試験 | 本学部のアドミッション・ポリシーに述べた「求める学生像」の4つの観点から、志願者の能力や態度等を見極めるために、「AO入試」「推薦入試」「一般入試」「国際型入試」の4種類の選抜試験を実施します。また、それぞれの入試類型の中でも複数の観点を組み合わせ、志願者の能力・意欲・適性等を多面的・総合的に評価します。 |
| 2 文理共通問題 | 一学部一学科の学部として、文理共通の試験問題を課します(留学生に対する試験を除く)。理系クラスで学んできた志願者も、文系クラスで学んできた志願者もどちらも解答可能な問題を用意し、いずれかが不利になることのないよう配慮します。 |
| 3 志望理由書 | これまでにない新しい学部であることに鑑み、すべての入試類型で「志望理由書」の提出を求め、学部への理解や適性などを確認します。 |

AO入試(募集人員:20人)

過去17年間にわたって実施されてきた21世紀プログラムAO入試を一部見直して、共創学部AO入試として実施します。大学入試センター試験を免除し、第1次選抜及び第2次選抜を行います。

〈出願期間〉平成29年9月19日(火)～9月22日(金) 17時必着

〈選抜期日〉平成29年10月上旬～中旬(第1次選抜)、平成29年11月4日(土)、5日(日)(第2次選抜) 〈合格発表〉平成29年11月27日(月)

入試のポイント

第1次選抜と第2次選抜のいずれの選抜でも「求める学生像」の4つの観点と大学で修学するための基礎学力という観点から評価します。第1次選抜では、調査書、志望理由書、活動歴報告書を総合的に評価して合否を判定します。活動歴報告書では正課、正課外の諸活動が評価の対象となります。第2次選抜では、実際に大学で行われる講義(人文社会系と自然科学系の2つの講義)を受講した上で執筆するレポート、集団討論、小論文、面接の成績を総合的に評価して合否を判定します。

推薦入試(募集人員:10人)

九州大学の入試で現在実施されていない推薦入試を実施します。高等学校等の長が推薦できる人数は、1校につき1人とし、大学入試センター試験を課し、第1次選抜及び第2次選抜を行います。第2次選抜は福岡・東京・大阪の3か所で開催します。

〈出願期間〉平成29年11月13日(月)～11月17日(金) 17時必着 〈選抜期日〉平成29年11月下旬～12月上旬(第1次選抜)、平成30年1月27日(土)(第2次選抜)

〈合格発表〉平成30年2月7日(水)

入試のポイント

第1次選抜と第2次選抜のいずれの選抜でも「求める学生像」の4つの観点と大学で修学するための基礎学力という観点から評価します。第1次選抜では、調査書、志望理由書、活動歴報告書を総合的に評価して合否を判定します。活動歴報告書では正課、正課外の諸活動が評価の対象となりますが、特に高校での正課における学習活動を高く評価します。第2次選抜は、プレゼンテーションと面接を実施します。第1次選抜の評点、第2次選抜の評点、大学入試センター試験の「国語」「数学」「英語」の合計点、これらを総合して合否を判定します。なお、「求める学生像」の④の観点から、大学入試センター試験「英語」については、指定の英語能力試験の成績を提出することにより、大学入試センター試験「英語」の得点として利用することができます。ただし、この場合においても、大学入試センター試験「英語」の受験は必須です。(詳細は募集要項を参照のこと)

一般入試(募集人員:65人)

大学入試センター試験と個別学力検査の合計点、志望理由書を総合的に評価して合否を判定します。本学部では幅広い分野の基礎知識と問題解決のための思考力をもった学生を求めていきます。そのような志願者を選抜するために、大学入試センター試験では幅広い教科・科目を課し、高等学校で修得すべき基礎的な知識の学習の有無を評価します。また、個別学力検査では、「数学」「英語」「小論文」を課し、本学部で学ぶために求められる学力や思考力を評価します。

〈出願期間〉平成30年1月22日(月)～1月31日(水) 17時必着 〈選抜期日〉平成30年2月25日(日)、26日(月)※前期日程のみ 〈合格発表〉平成30年3月8日(木)

国際型入試(募集人員:10人)

帰国子女と海外留学生向けの入学試験です。帰国子女入試では、海外での学習状況を配慮しセンター試験を免除しますが、個別学力検査で数学と英語を課し、本学部で学ぶための基礎的な学力があるかどうかという点から評価をします。また、面接、志望理由書を含む出願書類を「求める学生像」の観点から評価し、これらを総合して合否を判定します。海外留学生向けには私費外国人留学生入試(4月、10月入学)を実施します。本学部で学ぶための基礎的な学力があるかどうかという点から日本留学試験等の成績を求める。また、面接、志望理由書を含む出願書類を「求める学生像」の観点から評価します。

詳しい情報は、共創学部ホームページをご覧ください。 <http://kyoso.kyushu-u.ac.jp/>



「フロントランナー」は九州大学の若手研究者の最前線をインタビュー形式で紹介するシリーズです。

好蟻性昆虫研究のパイオニア 世界各地から数々の新種昆虫を発見!

蟻の巣の中で

こうせい

蟻のふりをしながら生きる好蟻性昆虫。

その生態の面白さ、姿形に惚れこんで

研究を続ける“昆虫博士”こと

総合研究博物館准教授・丸山宗利先生に、

採集活動ややりがいについて伺いました。



九州大学 総合研究博物館 准教授
丸山 宗利 Munetoshi Maruyama

2000年 3月	北海道大学 大学院農学研究科環境資源学専攻 修士課程修了
4月	日本学術振興会 特別研究員(DC1)
2003年 3月	北海道大学 大学院農学研究科環境資源学専攻 博士課程修了
4月	日本学術振興会 特別研究員(PD)・国立科学博物館
2006年 4月	日本学術振興会 海外特別研究員・フィールド自然史博物館(シカゴ)
2008年 1月	九州大学 総合研究博物館 助教
2017年 4月	九州大学 総合研究博物館 准教授

これまで約20カ国を訪れ採集

今後はマダガスカルやオーストラリアへ

——大変んですね…。研究のやりがい、喜びを教えてください。

徒労に終わることがあつても、

新種を発見した時の喜びが大きいです。誰も見たことがない昆

虫を誰よりも先に見つけて調べ

られるのが楽しい。それに、僕の

専門の好蟻性昆虫が見つかっ

たからなります。最近では、調査の最終日

にたまたま新種のツノゼミを見つ

けて驚きました。予想外のこと

があるのは、研究を続けてきた

ご褒美のようなものですね。今

後はまだ行つたことのないマダガ

スカルやオーストラリア、西イン

ド諸島で採集調査をしたいと考

えていました。

——新種には先生の名前がついた

昆虫もあるそうですね。

そうですね。ただ新種を見つ

けたからといって自分の名前をつ

けることはしません。僕の専門の

好蟻性種のなかには蟻にそつく

かでもヒゲブトハネカクシ亜科の

ハネカクシの形態は多様で、な

りなものがいます。同亜科全体の

系統を解析したところ、蟻にそつ

ていて、それが「ハネカクシ」にな

りました。
——持ち帰ったあとは何を調べる
のでしょうか。

新たな発見をしてそれまでの

昆蟲と見た目が違うと分かつて
も、それだけでは新種発見とは

なりません。色や形などの特徴、

近似種との違いを説明した論文

が発表された時点で新種と認定

されるのです。さらにDNAを採

取し、進化の過程を調べます。僕

は好蟻性昆虫のなかでもとりわ

け「ハネカクシ」に特化し追究し

ています。

ハネカクシの形態は多様で、な

くとも新種を発見することがあ

ります。最近では、調査の最終日

にたまたま新種のツノゼミを見つ

けて驚きました。予想外のこと

があるのは、研究を続けてきた

ご褒美のようなものですね。今

後はまだ行つたことのないマダガ

スカルやオーストラリア、西イン

ド諸島で採集調査をしたいと考

えていました。

——採集後、どのような研究を進

めているのでしょうか。

僕は新種を発表し、さらにそ

れらがどのような進化の過程を

経たのかを調べる、分類学と進

化生物学を専門にしています。

世界中の生命の多様性を明らか

にし、研究者だけでなく一般の

方々にも知つてもらうことが目

的です。

——フィールドワークではどこへ

ヘルーでグンタイアリの行列を調査



新種を発見して分類することで 生物学の礎になる

特に追究しているハネカクシ

くりな種が少なくとも12回独立に進化し、新生代以降（約650万年前）に現れ始めたことが判明しました。似たような形態が独自に進化することを平行進化といいますが、その大規模かつ新しい例を発見したことになります。蟻そつくりの種はどれも珍しく、12年かけて世界から主要な種を採集しました。

——先生がハネカクシの研究に興味を持ったのはなぜですか。

子どものころから図鑑をまるごと覚えるくらい生き物が好きで、昆虫だけでなく魚や鳥などを育てていました。大学に進学した後も日本各地で昆虫を探つていて、「好きな採集を研究にできれば」と考えていました時に、好蟻性昆虫のことを知ったのです。日本でも未発見の種が多いこの分野は、20年前は研究している学者がいませんでした。好蟻性昆虫のも名前が分からぬ。名前が分からないと研究もできない。そこか

ら先に進めないんです。分類学は発見しては名前をつけ、分類する、積み重ねの学問なのです。

——ということは、研究するにはまずは分類が必要なんですね。

ええ。例えば、今話題のヒアリには、危険なものと危険ではない同属別種の蟻がいます。あらゆる生物学の基礎に分類学があり、分類することでその後の学問に役立つのです。

——そのヒアリの研究グループが九州大学にあるそうですね。

はい。蟻の研究者4人で自治体や保健所からのヒアリの相談に対応する予定です。九大には昆虫学者が多く、分類学を研究する先生が10人くらいいて、とても刺激的な環境なんです。

——NHKの「夏休み子ども科学電話相談室」も担当されていますよね。毎回子どもたちの質問と先生の回答を楽しみにしています。

子ども向けに昆虫の面白さを伝える活動は最も大切にしていることです。さまざまな環境下

にいろんな生き物が住んでいて、環境が変わると命が奪われる生き物もいる。生命の多様性、自然の成り立ちを子どもたちに伝え、環境保護にも目を向けてほしいと考えています。また、博物館では夏に「昆虫採集教室」を開催していて、自然の本質を知る良い機会になつていると思います。僕は教室では、子どもたちに積極的に教えることはしません。自分で興味を持つて想像力を働かせ、調べる楽しさを体験してほしいんです。

——その好奇心が今の先生の根底にあるんですね。先生が研究を



多様な姿をしているツツゼミたち

「好き」という気持ちが研究を続けられた原動力



笑顔で昆虫について語る丸山先生



ケニアで調査のためシロアリの塹を崩している様子



学術研究・産学官連携本部
グランドサポートグループ
研究推進専門員(URA)
猿渡 映子

*研究推進職(URA)：University Research Administratorとは研究開発に係る企画立案、資金の確保、知的財産の取得および活用、その他研究開発に係る業務に従事する専門職。

さんも何か好きなことがあるのなら、それを研究にしてほしいと思っています。

—研究のモットーにしていることはなんでしょうか。

続けるためのモチベーションはなんでしょうか。

「昆虫が好きだ」という気持ちでしようか。姿形の美しさにはほれられます。分類学は生物学の基礎になるとはいえ、すぐに誰かの役に立つものではあります。いつ、どう生かされるかも分からぬ。それだけに、「好き」という気持ちがないと20数年も研究を続けられません。学生の皆

は下がるし、いざなは自分の首を絞めるでしょう。だから学生の皆さんには学問の背景を学び、今ある論文にも疑問を持ちながら「面白い研究をしてほしい」と伝えていきます。僕の研究はゴールがない。それが一番の面白みだと思っています。

—では、最近「面白い」と感じた他の研究について教えてください。

専門に調べているハネカクシ

は、体の下に自分の体長の何倍もの大きさの羽を隠しています。

こんなに大きな羽をどのように折りたたんだら小さくなるのか。その仕組みを調べたら航空力

学に生かせるでは、と考えた東京大学の先生がいらっしゃって、一緒に論文を書きました。自分

の研究が別の分野に生きてくるのは嬉しいものでした。

—「好き」という気持ちと好奇心を持って深めていく先生の研究が、生物学のみならず異分野研究にも生かされ、学術研究の発展に貢献しているのですね。ありがとうございます。

――「好き」という気持ちと好奇心を持つて深めていく先生の研究が、生物学のみならず異分野研究にも生かされ、学術研究の発展に貢献しているのですね。ありがとうございます。

今回の聞き手

Q 先生が影響を受けた先生は九州大学で研究をするメリットとは

A 昆虫の研究者が多く在籍しているところ。今年は同じ学部の先生と「新種発見－昆虫冒險旅行」と題した展覧会を開催しました。僕の調査旅行体験記や他の研究者の新種発見記のほか、気鋭の写真家・小松貴さんが撮影した昆虫のパネルを展示しました。



自宅で育てているガガイモ亜科の多肉植物

Q 先生の趣味は?

A たくさんあるんですよ。ひとつは西区今宿に畑を借りていて、野菜を育てています。また、家ではガガイモ科という珍しい多肉植物を増やしたり、淡水魚を飼育したりしているんです。生き物を育てる」と全般が好きなんですよ。

丸山先生に聞く!
Q & A

A 座右の銘
A 何事もケチケチしない。昆虫でも趣味でも、好きなことに対しても金に糸目をつけません。

記者会見レポート



記者会見の様子

平成29年6月23日(金)、九州大学起業部が発足し、久保総長、若山理事・副学長、山縣理事、学術研究・産学官連携本部谷口教授(QRECセンター長)立ち合いのもと、記者会見を行いました。久保総長より、九州大学起業部の設立が発表され、起業部の顧問を務める学術研究・産学官連携本部熊野准教授より、起業部設立の背景、起業部の活動概要が説明されました。最後に、起業部の部員を代表して山本さん(医学部4年生)が、決意表明を行いました。起業部には、総勢150名の学生が入部しており、今後、学生ベンチャーを創出していくます。



結成式後の懇親会の様子

起業部について

九州大学起業部は、本気で学生起業を目指す学生が集う大学公認の部活動です。サッカー部がサッカーをするがごとく、起業部は起業します。起業部では、チームでビジネスプランを作成し、国内外のコンテストに応募しながら、ビジネスプランをブラッシュアップし、起業に向けて実践的な活動を行います。九大教員が顧問として指導にあたるほか、国内外の一流の起業家やベンチャーキャピタリストをネットワークし、起業支援を行います。1年に平均5社、10年で50社の学生ベンチャーを創出。うち5社の上場企業の創出を目指します。

学生ベンチャーを創出

九州大学 起業部 発足!

医学部 4年

山本 真輝 やまもと まさき

工学府 修士2年

樋口 千紗 ひぐち ちさ

21世紀プログラム 2年

伴 ちひろ ばん ちひろ

高校生に向けて
いま、若者の起業熱が高まっています。そして、福岡はスター・トップ都市として全国的に注目を集め、その中でも九州大学起業部はその一翼を担う存在と期待されています。

九州大学では、起業家の育成に積極的に取り組んでおり、宣言がありました。結成式には、起業部の部員150名、部員を指導するメンターや起業部を支援する企業等の関係者が50名集まり、九州大学起業部は、未来に向けて、大きな第一歩を踏み出しました。



顧問の熊野准教授

い歴史を創っていく」と力強い宣言がありました。結成式には、起業部の部員150名、部員を指導するメンターや起業部を支援する企業等の関係者が50名集まり、九州大学起業部は、未来に向けて、大きな第一歩を踏み出しました。
が、日々切磋琢磨して、学生ベンチャーの創出に取り組んでいます。高校生の皆さん、九州大学起業部の門をたたき、一緒に未来を創造していきましょう。



結成式での集合写真

企業部員から一言

医学部 4年

山本 真輝 やまもと まさき

僕は起業によって培われる思考力・実行力を重視しています。将来はアントレ・ドクターとして臨床現場の感覚を持ちながら、山積する社会課題の解決にビジネスの手法で取り組みます。現在、商品開発に取り組んでいた経験から得た気付きを生かし、食習慣そのものを根本的に変容するサービスで起業準備中です。チャレンジする人にとって環境が非常に整っている福岡で、より多くの人に自己表現・自己実現して欲しいと思います。

工学府 修士2年

樋口 千紗 ひぐち ちさ

私が所属する工学府の博士課程教育リーディングプログラムの一環として、1ヶ月間シリコンバレーに留学し、数々のベンチャー企業を訪問しました。最先端の技術や商業化に向けたスピード感に感銘を受け、“起業”という選択肢を視野に入れるようになりました。私は自分の強みである、工学的な観点を生かした新しい技術の提案、事業化を手掛けたいと考えています。今の自分だからできることを大切に、目の前の課題に挑戦していきたいです。

21世紀プログラム 2年

伴 ちひろ ばん ちひろ

私は昨年11月にネパールを訪れた際に、一方的な支援ではなくビジネスを通した支援の形に興味を持ち起業部に入部しました。起業部では具体的に自分の思いをビジネスという形に落とし込む過程をサポートしてもらっており、九州大学は主に学び続ける人に対してさまざまな機会を提供してくれる場所であると実感しています。この環境への感謝の気持ちを忘れずに自分の叶えたい夢の実現に向けて精進していこうと思います。





流木によって倒壊した家屋

被災地にエールを送る！

平成29年7月 九州北部豪雨災害 調査・復旧・復興支援団



工学研究院附属
アジア防災研究センター
センター長
三谷 泰浩
みたに やすひろ

工学研究院
教授
島谷 幸宏
しまに ゆきひろ

左:島谷教授、右:三谷センター長

平成29年7月5日(水)に発生した平成29年7月九州北部豪雨災害では、河川の氾濫による洪水、大量の流木の流出による川の氾濫、土砂災害が数多く発生しました。

これを受けて九州大学では、工学研究院附属アジア防災研究センターが中心となり、7月25日(火)に「九州大学平成29年7月九州北部豪雨災害調査・復旧・復興支援団」を結成しました。メンバーは、アジア防災研究センターの三谷泰浩センター長をリーダーとして、工学院、農学研究院、持続可能な社会のための決断科学センター、医学研究院、歯学研究院、芸術工学研究院、人間環境学研究院、基幹教育院の教員ら50名(H29・9・1現在)で構

成されたいます。この組織は、今災害調査・復旧・復興支援団の発足と取組内容について記者会見を行いました。高松洋工学院院長からアジア防災研究センターの発足から今回の支援団の立ち上げに至る経緯を、島谷幸宏教授から具体的な取組内容について説明し、多くの質問をいただきました。

災害調査・復旧・復興支援団の立ち上げに至る経緯を、島谷幸宏教授から具体的な取組内容について説明し、多くの質問をいただきました。

この災害による被害は記録的な大雨によるものですが、それによる被害の規模は想像を絶するものであり、今まで被災地での復旧は遅々として進んでいない状況にあります。このため、我々は、被災地の被害調査やカニズムを解明することを目的とした現地調査、被災地へ派遣した灾害ボランティアのサポート、避難所や仮設住宅への人的支援、地域自治体への支援、専門家としての支援、持続可能な復興計画、地域づくりの提案などを実行していく

今回の災害の直接的な原因は記録的な大雨によるものですが、それによる被害の規模は想像を絶するものであり、今まで被災地での復旧は遅々として進んでいない状況にあります。このため、我々は、被災地の被害調査やカニズムを解明することを目的とした現地調査、被災地へ派遣した灾害ボランティアのサポート、避難所や仮設住宅への人的支援、地域自治体への支援、専門家としての支援、持続可能な復興計画、地域づくりの提案などを実行していく

今回の災害の直接的な原因は記録的な大雨によるものですが、それによる被害の規模は想像を絶するものであり、今まで被災地での復旧は遅々として進んでいない状況にあります。このため、我々は、被災地の被害調査やカニズムを解明することを目的とした現地調査、被災地へ派遣した灾害ボランティアのサポート、避難所や仮設住宅への人的支援、地域自治体への支援、専門家としての支援、持続可能な復興計画、地域づくりの提案などを実行していく



左:高松工学研究院長、右:島谷教授

ます。今回の災害による被害は、非常に広範囲に及び、専い命だけなく、住民の生活基盤も失われています。この被災した地域を再建するためには、九州大学の専門的な知識を活用し、地域住民や行政機関と協働しながら、復旧から復興までを視野に入れた息の長い支援を行なうことが大切だと考えております。また、将来起こりうる災害に対して今後どのように対処するかを示し、被災した地域が将来にわたって安全かつ安心な地域となるよう協力していきたいと思います。

第一回合同調査報告

平成29年8月11日（金・祝）に九州大学平成29年7月九州北部豪雨災害調査・復旧・復興支援団としての第一回合同調査を実施しました。メンバーは、アジア防災研究センター 三谷泰浩センター長、工学研究院 島谷幸宏教授、林博徳助教、岡島裕樹学術研究員、農学研究院 佐藤宣子教授、持続可能な社会のための決断科学センター 矢原徹教授、基幹教育院 陳光齊教授ら7名で、それぞれ防災、河川、森林、生物、地盤、情報といった異なる専門分野の教員がそれぞれの視点から議論を行いながら現地を調査しました。

調査ルートおよび調査地点は、図に示す通りで、河川上流域における災害が発生している「平穂地区」、河川の災害が著しかった赤谷川を下流から「松末地区」を通って上流域まで、そして東峰村の「小石原地区」、「岩屋地区」、「西福井地区」、それぞれの災害状況をみてきました。

分野横断的な専門家が合同で調査を行うこ



支援団と行政の打ち合わせ



現地調査の様子

とで災害を総合的に「みる」とができる。今後の復旧・復興につながる実りある調査となりました。今後は地域の復旧に向けて活動を続けていく予定です。

先生から一言

九州大学において、このような分野横断的な組織が結成されたのは初めてです。災害はさまざまな学問領域を総合化して対処しなければならないので、九州大学の果たす役割は重要です。記者会見では、避難所でどのような具体的な支援をしているのか？学会ではなく大学で支援することの意義は？などたくさんの質問をいただきました。九大への期待が高く、身が引き締まる思いです。



問い合わせ先：三谷 泰浩 TEL:092-802-3399 E-mail:mitani@doc.kyushu-u.ac.jp

災害情報(被害、復旧対応時)の収集・集約・共有サイト

九州地理空間情報ポータル 平成29年7月九州北部豪雨災害サイト <https://geoportal.doc.kyushu-u.ac.jp/>



記者会見の様子

研究者カップルを応援

国内初!! 配偶者帯同雇用制度を 創設

総長

久保 千春 くぼ ちはる

九州大学では、アクションプランの骨子の一つである「世界最高水準の研究とイノベーションの創出」に関する取組の一つとして、配偶者帯同雇用制度を創設しました。同居を望む研究者同士の夫婦を、九州大学に同時または連続して採用することで、真に優秀な研究者の確保や定着を図ることを目的としています。

対象は、九州大学に雇用されるまたは雇用されている教員のうち配偶者の採用を希望し、総長が認めた者。教授会で候補者を選考し、総長に推薦します。必要に応じて、部局の長と採用の調整をし、候補者の資格審査を実施。教員の所属する部局の長と連名で推薦します。

その後、総長は役員会で審査し、候補者の採用の可否を決定します。

選考基準は、九州大学教員の人員配置及び選考に関する規程第4条に規定する教員候補者推薦基準を満たし、次いづれかに該当するものです。
① ノーベル賞、文化功労者、

日本学士院賞、日本学士院エジンバラ公賞、日本学術院賞を受賞し、社会的に高い評価を受けている者
② 紫綬褒章や日本国際賞、京都賞を受賞し、社会的に高い評価を受けている者
③ 原則として、次に掲げる研究プロジェクトに採択された代表者

ア 特別推進研究、新学術領域研究、基盤研究(S)などの科学研究費助成事業

イ 九州大学特定大型教育

研究プロジェクトの拠点に関する規程第2条別表第

2に規定する拠点

ウ ア・イに準ずる研究プロジェクト(※外国のものを含む)

④ 将来的に①～③を満たす可能性があるものとして役員会に設置する選考委員会が認めた者

井上和秀理事・副学長は、「本制度は国内外から卓越した研究者や優れた研究者であらうとする野心ある若い研究者を迎える野心ある若い研究者を、また、すでに学内にいる上記研究者の定着を図る」と語ります。

井上理事・副学長(人事担当)から一言

本制度は、①国内外から、卓越した研究者、あるいは優れた研究者たるとする野心ある若い研究者を迎える、かつ、②すでに学内にいる上記研究者の定着を図る施策の一つです。これら研究者の配偶者を、同時又は連続して採用し、研究者カップルの総合力を高めることにより、九州大学の教育・研究活動の強化と充実を図ります。



人事企画部人事企画課企画係
TEL:092-802-2235



施策の一つです。これら研究者の配偶者を採用し、研究者カップルの総合力を高めることで、九州大学の教育・研究活動の強化と充実を図ります」と語ります。



九州大学総合研究博物館
Kyushu University Museum

MUSEUM REPORT VOL. 10 / 鉱物標本

九州大学総合研究博物館の収蔵資料

鉱物学黎明期の鉱物標本



高標本の展示室：日本国内にこれだけの数の木製展示ケース入りの標本を残しているのは九州大学だけ（九州大学総合研究博物館第三分館）



【写真1】蒼鉛タンタル石(岡本標本)：国内最高の標本

の古い木製展示ケース内に
鉱物標本があります。これ
らの多くは100年以上
前に日本、海外の古典的な
産地や鉱山で収集された
現在入手不可能なもので
す。九州大学には、帝国大
学時代から収集され続け
た、膨大な数の鉱物標本が
収蔵されています。教育の
ために国内外の標本商から
購入されたもの、工学部や
理学部の歴代の教授など
が研究のために各地を調査
し、収集した標本が保管さ
れています。研究者達の標
本は研究者ごとに特色や
専門性がみられ、多大な労
力と情熱をかけて収集さ
れたことを伺うことができ
ます。例えば、福岡県と長
崎県の鉱物を調査研究し
た岡本要八郎標本（写真
1）、日本のマンガン鉱石に

と共に、日本において見事
な結晶鉱物が最も豊富に
産した19世紀末から20世
紀初期の3大コレクションの
ひとつとされ、その数は
1200点に達します。現
在、この3大コレクションの
中で展示公開されているの
は「高標本」だけです。工学

特化した吉村豊文標本（写
真2）などがあります。今
回は、それの中から我が
国における、20世紀初期の
3大コレクションのひとつで
ある高壯吉標本を紹介し
ます。

本学の鉱物コレクションの
中核は、明治45（1912）
年から昭和4（1929）
年まで工学部採鉱学教室
の教授であつた高壯吉に
よつて集められた「高標本」
です。1890年代から
1930年代にかけて、日
本国内はもとより朝鮮半
島、台湾、中国等まで足を
延ばして収集された標本で
す。「高標本」は、九州で多
くの金属鉱山が稼働してい
た時代に収集され、九州產
の大型で豪華な結晶標本
が多数含まれることで著名
です。和田維四郎標本（三
菱マテリアル所蔵）や若林
彌一郎標本（東京大学所蔵）

鉱物は46億年の歴史を記
録する地球の基本構成單
位で、鉱物学は19世紀に成
立した歴史ある基礎科学
です。20世紀後半からは
月、隕石などの地球外鉱物
や地球深部の鉱物も研究
対象となり、広く発展して
います。自然科学において
標本の観察と野外観察は
教育研究の原点です。これ
らの展示標本は大学創設
以来、鉱物学、地質学、鉱山
学、博物館学などの教育研
究に利用されていますが、
九州大学の誇るべき国内隨



【写真2】吉村石：1961年に発表された新鉱物で、吉村教授（当時）の名にちなんで命名された（赤い三角矢印の先）

山川賞受賞で生まれた人との出会い

教育学部3年 山崎 なづな



若手選手育成合宿にて次世代の仲間とともに

学生の未来を応援する 九州大学ならではの制度

との出会いを重ねることで
き、試行錯誤しながらも夢に向
かって努力できる最高の環境を
つくることができます。

私が「山川賞受賞者」として
採択していただいたのは大学2
年生の時でした。

山川賞は「現在」よりも「未
来」に焦点を当てた賞だと感じ
ています。なぜなら、今までにあ
る実績よりも、これから的学生
生活、人生をかけて成したいこ
と、未来に掲げる「志」に与えら
れる栄誉だからです。

「学生の未来を応援したい」と

いうメッセージが込められていて、
学生の夢や志を全面的に支援
する九州大学ならではの素晴らしい
奨学金制度だと思います。

私自身、受賞をきっかけに以
前よりもさまざまな機会や人

目標を失ったのではなく チャンスを得たと 気付いた瞬間

車椅子バスケとの出会いは高
校生の時でした。私には陸上競
技をずっと続けていくという目
標があったのですが、軽度障害に
よつてその目標を失つてしまつた
のです。

その後、車椅子バスケと出会
い、自分よりも何十倍も重度の
障害をもつ選手とプレーした
時、「自分は身体や目標を失つた
のではなくチャンスを“得た”の
だ」と気付きました。



女子Jr.世界選手権 カナダ選手との対戦

インドの子どもたちを見て 児童問題解決の 糸口を知った

印度の子どもたちを見て
児童問題解決の
糸口を知った



インターン先の同僚とともに(インド)



公教育を受けていない子どもへのインタビュー(フィリピン)

私は将来、あらゆる機会が公正に与えられ、挑戦できる社会になるよう尽力したいと考えています。

今まで私はどんな状況に陥つても人との出会いや機会によつて救われてきた経験がありまし

必要なときに手を差し伸べ
チャンスにあふれる
社会にしたい

日系企業設立の低所得者層
向け自動車技術学校へ見学に赴いた際、子どもたちが社会に必要とされて卒業する姿に感動しました。子どもたちの就職先も以前では考えられないほど優良印象にあります。

新興国児童問題の現実を直視し、将来の活動へのヒントを得るために海外へ留学しました。特に、インドで目にした風景が

注いでいることがあります。それは、子どもたちの未来をつくること。



車椅子バスケの他にも情熱を

注いでいることがあります。それ

は、子どもたちの未来をつくること。

な会社ばかりでした。

教育で子どもを救おうとする活動は多く見受けられます

が、この現場は新興国における子どもの貧困の連鎖を実際に

断ち切つていいひとつ的好例で

あり、とても魅力を感じました。

この活動は全国のケースモデルにもなり得るうえに、このまま研究を続けていけば、私自身の研究テーマの後押ししができるかもしれません」と期待しています。

自分が今、取り組んでいることが少しでも子どもたちの将来を良くできるように邁進しているところです。

子どもたちの将来のために 日本国内で研究を進める

そういう体験を経て、現在は日本国内の児童の支援の研究に力を注いでいます。

実際に福岡にあるNPO法人に身を置き、児童養護施設内で学習支援を通じた子どもたちの将来を支援する取組をしています。

児童養護施設の子どもたち

を対象に学習支援をする意義や彼らの学習環境、進学、社会進出などの現実を分析するのが主な研究内容です。

この活動は全国のケースモ

た。自分で探求して抜け出した状況もあれば、差し伸べてもらつたその手にすがり、なんとか這い出ることができた状況などさまざまです。

今、こうして興味のあることに熱中できるのも山川賞をはじめ、たくさんの方々からの支援

があつたおかげだと感謝してい

ます。その恩を返すためにも、今は私が社会に出ることで、出会いや機会をしかるべき相手に、かかるべきタイミングで与えられ

山川賞について

「山川賞」は、平成24年度から創設された「九州大学基金」における支援援助事業の1事業であり、山川健次郎初代総長の名を冠した賞です。

九州大学教育憲章が指向する優れた志を持ち、学業に優れ、将来、社会のさまざまな分野で指導的な役割を果たし、広く世界で活躍することを目指す学部学生に授与されるものです。

申請資格は九州大学の2年次・3年次の学部学生。人間性、社会性、国際性、専門性に対する志や将来の目標、目指す人物像をもとに候補者を選考し、10名程度の受賞者を決定。受賞者には学業を助成する奨励金(学資金)を支給し、学生たちの建設的な未来を応援しています。



授賞式(久保総長と山川初代総長写真前にて)

●九州大学基金Webサイト
<http://kikin.kyushu-u.ac.jp/>

将棋部

躍動

学生スタッフが取材・執筆を担当する企画「躍動」。
タイトルは取材に協力した各サークルの代表者が書いています。
個性あふれる手書き文字にサークル活動への熱意を感じます。

— 81マスの盤上を駆ける —

創立から60年の歴史を持つ「将棋部」。限られた盤の上で、無数の智略をぶつけ合う。己の信じた一手を頼りに。今回の躍動では、将棋部の活動内容に迫ります。



奥深き将棋の世界に 魅せられて

どのように練習を行っていますか。

湯 活動日は不定期ですが、伊都地区では毎日部室を開放し、箱崎地区では貝塚共用施設の教室を借り、希望者を募って活動しています。

米村 対局した後は上下関係なく感想戦という意見交換を行って視野を広げています。コーチはいませんが、9月から大学の支援のおかげでプロの方に教えていただくことになっています。

将棋部に入部したきっかけを教えてください。

有田 小学生の頃に親から将棋を教わり、近所の道場に通っていました。後に大学将棋は非常にレベルが高いと聞き、挑戦したいと思つたことがきっかけです。

将棋部に入部したきっかけを教えてください。

湯 将棋は奥深いところが魅力です。将棋はかなり古い歴史を持っていますが、いまだに新しい戦法などが発見されるなど、底が知れません。

米村 将棋部は個性的な人間がたくさん

練習風景



初心者でも、入部して大丈夫ですか。

湯 大丈夫です。毎年、新入部員の約3割は初心者ですが、一年間で初段を取得するまでに上達する人もいます。将棋はやれぱやるほど上達するので、駒の動かし方やルールを知らない状態で入部した人でも今では経験者と遜色ないほどの実力です。

部活で大切にしていることや意識していることを教えてください。

米村 今話題の藤井君をはじめ、面白い将棋を指す人がたくさんいます。その方々の局面の運び方を研究し、自己鍛錬に励んでいます。

湯 強かつた先輩たちが抜けた分を埋めるため、大会で部に貢献しようとする思いや、今までに素晴らしい先輩方から教わったたくさんのこと、後輩たちにも伝えていくことを意識しています。

有田 やはり「将棋が好き」だということが一番のモチベーションです。また、将棋はネットを通しても対戦することができるようになりましたが、二人で向き合つて将棋を指し、一局一局を大切にするようにしています。

将棋や将棋部の魅力は何ですか。

湯 将棋は奥深いところが魅力です。将棋はかなり古い歴史を持っていますが、いまだに新しい戦法などが発見されるなど、底が知れません。

まつて将棋以外の遊びをすることもあります。

どのような人と交流がありますか。

湯 大会や合宿などで、他大学の人たちと交流しています。また、他大学の方が部室に訪ねてくることもあります。

有田 卒業しても将棋を続ける人は多く、社会人の大会で優勝しているOB・OGの方やプロ棋士の方を招いて、交流会を開くことがあります。さらに、糸島市で夏に行われる「小中学生こども将棋大会」にボランティアとして参加したり、プロ棋士の模範対局の解説などの手伝いをしたことがあり、地域の人たちとも交流があります。

最後に九大生・高校生へのメッセージをお願いします。



DATA

◎部員数:50~60名程(男女比9:1)

◎活動場所:

伊都地区課外活動施設Ⅱ
将棋部部室

◎活動日:日ごろの活動は不定期
全体活動は月に1、2回

◎問い合わせ先

E-mail:qshogi@hotmail.co.jp

Webサイト:www.geocities.jp/qshogi/ Twitter:@q_shogi

FOCUS

「春季・秋季九州学生将棋大会」

九州内の大学を対象として開催され、全国大会にも繋がる重要な大会です。前回の春季大会では、九州大学が二位を収めました。

「北九州大会」

毎年夏と冬に開催される交流大会です。楽しむことを目的としており、OB・OGや九州外から参加する人もいます。

「夏合宿」

九月上旬に九重で三泊四日の合宿を行います。

この記事は、広報室学生スタッフが制作しました。

(左から)

坂元 淳(農学部1年)

下山 ちひろ(理学府2年)

平田 順彦(工学部1年)

廣野 穂一(理学府2年)

小野 聖文(農学部1年)※写真には写ってません



<https://www.facebook.com/KyushuUniv.Student>

湯 将棋部は春と秋の九州大会で成績を残し、全国大会に出場することを目標に練習しています。また、九大将棋部におけるここ数年のビッグニュースをまとめた本「九棋」の出版もしています。

有田 高校生の皆さん、受験勉強は大変ですが、私たちと一緒に奥深い将棋の世界へ飛び込みましょう。

取材協力



米村 拳太郎さん
(主将)
理学部4年



有田 光佑さん
(幹事)
文学部2年



湯 晨一さん
(前幹事)
工学部3年

KYUDAI TOPICS

Topics

01 松野博一文部科学大臣(当時)が伊都キャンパスを視察

2017年7月31日(月)、松野博一文部科学大臣(当時)が本学伊都キャンパスをご視察されました。

松野大臣(当時)は、久保総長や大学執行部とイノベーション創出に向けた本学の取組や博士課程学生の現状等について活発な意見交換を行われた後、本学が世界で初めて公用車として導入したFCV(燃料電池自動車)にて「次世代燃料電池産学連携研究センター」に移動されました。佐々木一成副学長から産業用燃料電池複合発電システムのための研究について説明を受けられた後、複数の企業ラボが入った研究施設を見学されました。

続いて、「最先端有機光エレクトロニクスセンター」を訪問され、安達千波矢主幹教授やKyulux(株)安達淳治CTO(最高技術責任者)から、世界最先端の有機EL研究や実用化研究について説明を受けられました。関連企業との関係についてご質問されるなど、大学における産学官連携研究のあり方について大きな関心を示されました。

最後に、伊都キャンパスのセンターゾーン、ウエストゾーンを視察され、2018年秋に移転完了を予定している伊都キャンパス整備状況

について説明を受けられました。

本学の世界最高水準の教育研究環境が着実に進歩している状況を視察され、本学のさらなる発展に大きな期待を示されました。



松野大臣(当時)と、久保総長や大学執行部との記念撮影

Topics

02 駐日カナダ大使が伊藤理事・副学長を表敬訪問

2017年5月19日(金)、イアン・バーニー駐日カナダ大使が、伊藤早苗理事・副学長を表敬訪問されました。

カナダ大使館からは、アンドレア・クリメンツ参事官と藤井浩二・西日本通商事務所通商代表が同行され、渡邊公一郎副理事より、本学の概要及びカナダとの交流状況について説明があり、今後の交流発展に向けての意見交換が行われました。

表敬訪問に引き続き、燃料電池自動車に試乗して、椎木講堂から水素エネルギー国際研究センターへ移動し、佐々木一成副学長から水素プロジェクトの概要説明が行われました。大使は熱心に耳を傾けられ、質疑応答の後、水素社会ショールームと水素ステーションを見学されました。

カナダとの交流を進めていく上で意義のあるご訪問となりました。



前列左から3人目がイアン・バーニー駐日カナダ大使

Topics

03

「九州大学ヒアリ研究グループ」が発足！

2017年5月26日に兵庫県尼崎市にて日本で初めてヒアリが発見されました。その後、次々に侵入事例が報告され、7月21日には福岡市のアイランドシティでもヒアリが発見されました。ヒアリは一度定着すると根絶が非常に難しく、健康被害や経済被害も膨大になります。

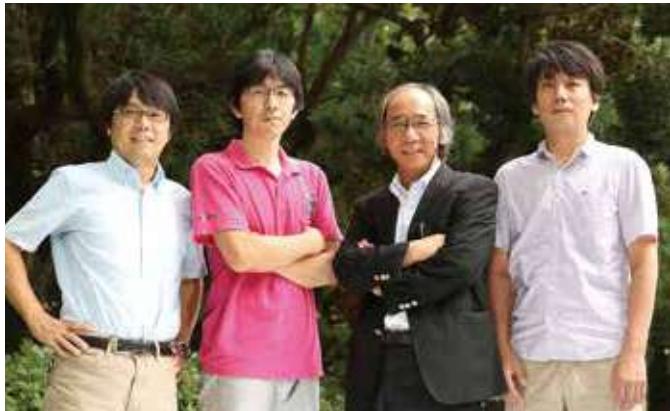
そこで、九州大学の村上貴弘准教授(持続可能な社会のための決断科学センター)を代表者として、細石真吾助教(熱帯農学研究センター)、緒方一夫教授(熱帯農学研究センター)、丸山宗利准教授(総合研究博物館)で「九州大学ヒアリ研究グループ」を立ち上げました。

このグループの目的は、ヒアリの定着を防ぐために、九州周辺でのヒアリと疑わしいアリの同定支援、ヒアリの生態や



ヒアリのハタラキアリの写真

行動に関する助言や情報提供を自治体や港湾・空港事業者等に向けて行います。アリ学者が4人も揃うのは九州大学の強みです。研究グループは「個人的なアリ相談や、シロアリの駆除などは応じかねますが、私たちの知識と経験がヒアリ防除の一助となれば…」と話しています。



ヒアリチーム(左から丸山准教授、村上准教授、緒方教授、細石助教)

Topics

04

Oxford 大生と九大生のコラボによる模擬国連キャンプを開催

模擬国連は、国際的な問題について議論・交渉し解決策を提案する、世界的な学生会議です。本学国際化学生委員会(SCIKyu)、Oxford大学模擬国連サークル、立命館アジア太平洋大学等の有志が13名の実行委員会を組織し、2017年8月11日(金・祝)～14日(月)の日程で、日本では初となる完全英語による国際標準の模擬国連を体験するサマーキャンプを開催しました。大分県九重町にある会場の九州地区国立大学共同研修所には、高校生や外国人留学生などを含む、総勢40名の一般参加学生が集い、国連の歴史と仕組み、議論・交渉のルールとスキルなどを学んだ後、「北朝鮮の核の脅威」および「途上国の持続的な支援」をテーマとしたミニ模擬国連を体験しました。寝食をともにしながら、夜中まで濃密な議論が繰り広げ



模擬国連セッションの様子

られ、参加者からは、国際課題の理解、英語によるリアルな交渉術の修得など、本模擬国連キャンプのグローバルな教育効果に高い評価が寄せられました。本キャンプは本学SHARE-Qからの支援を受けて立ち上がりましたが、来年度以降も続けていくことで、本学の国際的評価がさらに高まることが期待されます。



集合写真(国内外から40名の学生が参加した)

Topics

05

平成29年度 開学記念式典を挙行

本学は、5月11日を「本学記念日」とし、例年、開学記念行事を開催しています。今年も、2017年5月11日(木)に伊都キャンパスの椎木講堂で開学記念式典を挙行し、招待者や学内外の関係者約180名が出席しました。

式典では、久保総長から、本学の現状や最近の取組の紹介があった後、本学に多大な貢献をいただいた方への感謝状の贈呈、名誉教授への称号記の授与、本学基金による代表的な支援助成事業である「山川賞」を受賞した学生3名の発表を行いました。

続く講演会では、本学大学院医学研究院の林克彦教授から「幹細胞からの卵子再生」と題した講演があり、参加者は興味深い話に聞き入っていました。

また、会場となった椎木講堂のギャラリーでは本学工学部百年の歴史にスポットを当てた「工学部の百年」展を行い、記念式典終了後の懇談会では本学応援団による演舞が披露されるなど、盛会のうちに終了しました。

なお、開学記念行事の一環として、各キャンパスでも学内施設を公開し、一般の皆様に対して本学の最先端の教育研究内容を広く知っていただくためのイベントも開催しました。



式典の様子

Topics

06

歯学部創立50周年記念式典・祝賀会を挙行

1967年の創立以来、本年6月に50周年の節目を迎えた歯学部は、2017年7月22日(土)に歯学部創立50周年記念式典・祝賀会を挙行しました。式典では、これまで本学部へご支援いただいた方々、卒業生、名誉教授、教職員、学生ら約470名が参列する中、古谷野潔学部長から、参列者及びご支援いただいた多くの方々に感謝の意を表すとともに、これまでの50年の歴史と一連の記念事業を、ビデオを使って紹介し、次の時代へ向けた新たな決意を示しました。次いで、総長の挨拶(代読:井上和秀理事・副学長)の後、鬼木誠衆議院議員、森孝之文部科学省高等教育局医学教育課長、田口円裕厚生労働省医政局歯科保健課長、堀憲郎日本歯科医師会会长(牧野利彦副会長代読)、住友雅人日本歯科医学会会長から祝辞が述べられました。式典終了後は祝賀会を開催し、参加いただいた方々と共に創立50周年を賑やかにお祝いしました。

また、歯学部では創立50周年を機に、「継承・躍進・牽引」をスローガンとして掲げ、様々な記念事業に取り組んでいます。その一環として、2017年5月17日(水)に、歯学研究院棟本館玄関前において、記念モニュメント及び歯学部の看板の除幕式を行いました。関係者の手で幕が引かれ、銀色に輝くモニュメント、歯学部のロゴマークを使用した新たな看板が披露されると、その場

に集まった多くの皆様から盛大な拍手が沸き起こり、除幕式は大いに盛り上がりいました。



歯学部創立50周年記念モニュメント



式典の様子

Topics

07

グローバルイノベーションセンター開所記念式典を開催

グローバルイノベーションセンター(GIC)は、国内外の産学官が一体となり、オープンイノベーションを基軸として新たな価値を作り出すための組織として、これまでの産学連携センター(KASTEC)を改組して、2016年10月に誕生しました。その改組を学内外に周知するため、2017年4月7日(金)に、筑紫キャンパスの総合研究棟(C-CUBE)筑紫ホールにおいて開所記念式典を行いました。

開所記念式典は、ポール・マデン駐日英国大使、真先正人文部科学省官房審議官(科政局担当)をはじめ、6カ国の外国公館、政府関係者、福岡市をはじめとする自治体、大野城市長など

180名を超える方々が参加して行われました。

式典では、久保千春総長から「グローバルイノベーションセンター(GIC)が、大学や産学界、地域をつなぎ、イノベーションを興すことで、我々の社会を豊かにし、さらにグローバルな繁栄に貢献することを願います。」との挨拶がありました。

本式典において60を超える企業参加を得たことは、GICの活動への大きな期待の証左であります。この強みをさらに強化・発展・明確化させることは、GICのアクティビティの向上にとどまらず、本学のオープンイノベーションの展開に大きな意義をもつものです。



久保千春総長



ポール・マデン駐日英国大使



真先正人文部科学省官房審議官

Topics 08

久保総長が 京セラ稻盛名誉会長を訪問

2017年6月6日(火)に、本学の久保総長と若山理事・副学長(研究担当)が、京セラ株式会社本社に稻盛和夫名誉会長を訪問し、これまで10年という長きにわたり、本学「稻盛フロンティア研究センター」に対し多大なご支援をいただいたことへのお礼を申し上げるとともに、今後の将来構想についての意見交換が行われました。

稻盛名誉会長は、センターにおける若手研究者の育成実績や進路等に興味を示されるとともに、センターの発展計画に対する謝意と若手研究者の更なる飛躍への期待の言葉を述べられました。

「稻盛フロンティア研究センター」は、本学の創立百周年記念事業の一環として、財団法人稻盛財団および京セラ株式会社からの寄付により2008年4月に設置されました。2050年の人類に共通する課題を研究対象と定め、将来の安心・安全な社会に貢献するため、人と技術の調和、心と技術の調和に貢献する研究活動を行うとともに、若手研究者の交流と育成を推進しています。



左から若山理事・副学長、稻盛名誉会長、久保総長

本学では設立時の理念に基づき、2018年度からは未来社会のエネルギーを考える「エネルギー研究教育機構」等の新しい研究・教育プラットホームとの連携も図りつつ、優秀な若手教授の採用や若手研究者の育成等を継続して進めていきます。

本年12月1日(金)には、稻盛財団記念館において、センターの10年間の活動を振り返るとともに、これまで培った実績とその意義、並びに今後の発展計画を広く社会に知っていただくことを目的として、「稻盛フロンティア研究センター10年記念ワークショップ」を開催する予定です。

Topics 09 ヨット部90周年記念祝賀会を開催

2017年6月4日(日)、西鉄ソラリアホテルにて、ヨット部創部90周年記念式典が行われました。式典には66名の現役部員のほか、セーリング連盟や学校関係者、歴代のOB・OGが多数出席し、ヨット部の歴史を感じられるものとなりました。

ヨットを含むセーリング競技とは、帆の表面を流れる風から生じる揚力を動力として水上を滑走し、その速さや技術を競うスポーツで、オリンピックの正式種目でもあります。日本は1936年(昭和11年)のベルリンオリンピックでセーリング競技に初出場しましたが、本学ヨット部はその前の1927年(昭和2年)に創立された日本最古の大学ヨット部です。

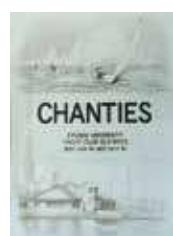
この長い歴史上、全日本インカレ総合優勝をまだ成し遂げていませんが、近年では部員数も増え、全日本インカレでは2年連続入賞、七大学戦では8連覇中と着実に力をつけてきています。90周年の節目を迎え、いまだ成し遂げていない「全日本イン



現役部員によるエール

カレ優勝」を目指します。

また、ヨット部には「シャンティ」と題する愛唱歌集があり、今年改訂しました。シャンティの歌がこれからも盛んに歌われるよう歌い継いでいきます。



Topics 10 本学トライアスロン部所属の井辺弘貴さんが九州代表として日本選手権出場権を獲得し、福岡トライアスロン初代王者に！

2017年6月11日(日)、熊本県天草市で行われた「熊本地震復興支援 第32回 天草宝島国際トライアスロン大会」において、本学トライアスロン部の井辺弘貴さん(工学府修士1年)が1時間59分で優勝しました。優勝した井辺さんは、2017年10月15日(日)に東京で開催される日本選手権の九州代表選手として、日本選手権への出場権を獲得しました。

今大会はスイム1.5km、バイク40km、ラン10kmの合計タイムで競うオリンピックディスタンスの大会であり、27人の選手が日本選手権の出場枠を狙って参加しました。

スイムが終了した時点では12位だった井辺さんは、得意のバイクで先頭に躍り出て、最後のランで集団を抜き去り、2位と3分差をつけてフィニッシュしました。

出場権を獲得した井辺さんは、「日本選手権までに苦手のスイムを克服し、少しでも上位に入れるように頑張りたいと思います。」と、日本選手権に向けて新たに決意しました。

さらに井辺さんは、2017年7月2日(日)に福岡県福岡市志賀島



スイムを終えバイクを始める井辺選手

にて開催された「福岡トライアスロン2017」において、初代王者に輝きました。「福岡トライアスロン2017」は、福岡市では初のオリンピックディスタンスの大会であり、第1回目の大会ということで、真夏日の厳しい暑さでしたが、約750名という多くの選手が出場しました。

井辺さんは「福岡市で開催された第1回目の記念すべき大会で優勝でき、とても嬉しいです。ただ、レース中にあまり水分がとれておらず、ランの後半に熱中症になってしまい、後ろの選手にかなり追い上げられたので、今回の反省をシーズン後半の大きな大会に生かしていきたいです。」と今後の大会に向けて気を引き締めていました。



応援に駆け付けた部員たち

Topics 11 中国駐福岡領事館総領事一行が『春水』手稿本を閲覧

2017年6月27日(火)、中華人民共和国駐福岡総領事館の何振良総領事一行が、箱崎キャンパス中央図書館を訪問され、同館濱文庫に所蔵される冰心(1900-1999、日本では謝冰心とも)の『春水』手稿本を閲覧されました。『春水』手稿本は、本学大学院言語文化研究院の中里見敬教授らの研究グループにより、冰心の自筆完全原稿であることが執筆から95年を経て確認されたものです。

冰心22才のときに書かれたこの原稿は、現存する冰心手稿の中で最も早い時期の完全原稿で、中国現代文学の第一級の原資料です。2016年に公開された魯迅の実弟である周作人(1885-1967)の1939年の日記に、『春水』手稿本を本学名誉教授である濱一衛(1909-1984)に贈ることが記されていたことから、濱文庫に所蔵される『春水』手稿本の由来が判明しました。また、『春水』出版時に周作人が編集を担当していたことから、この原稿が冰心による自筆原稿であることが確実になりました。

何総領事は、中里見教授から『春水』手稿本が濱文庫に収蔵されるに至った経緯やその意義に関する説明を受けた後、手稿本を手にとられ、「現在の年齢になってあらためて読むと、わずか3行の短い詩に哲理が含まれていることが理解できる」などと感想を述べられました。また、本学文学部の学生による『春水』の朗読が披露されると、熱心に耳を傾けられ、その後も、宮本一夫附属図書館長、中里見教授、学生らと和やかに意見を交わされました。



『春水』手稿本を閲覧する左から何総領事と、丁剣教育室長、中里見教授、宮本附属図書館長



『春水』手稿本1ページ、冰心自筆本文冒頭



『春水』を朗読する学生

Topics 12 中国科学院大学との大学間交流協定調印式を開催

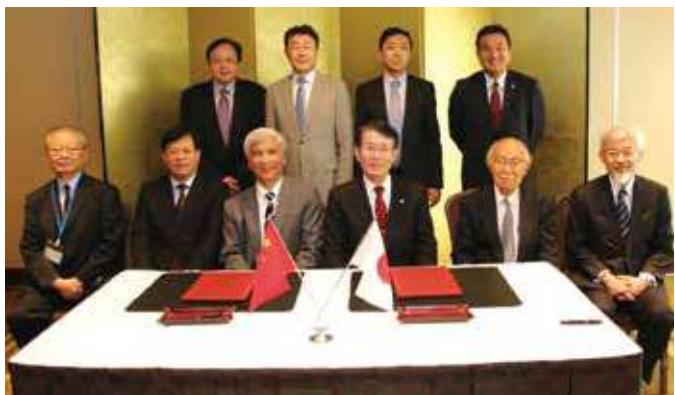
2017年6月6日(火)、本学と中国科学院大学との間で大学間交流協定調印式を開催しました。

本学からは久保総長と若山理事・副学長、中国科学院大学からは丁仲礼学長が出席され、両大学の交流の橋渡し役となった科学技術振興機構(JST)中国総合研究交流センターの有馬朗人センター長も立ち会いのもと、大学間学術交流協定が締結されました。

中国科学院大学は、中国最高レベルの研究機関である中国科学院の傘下にある総合大学で、中国科学院における科学研究と人材育成を融合させた特色ある高等教育機関として設立され、これまでに数多くの優れた人材を輩出しています。

本協定の締結を契機として、環境・エネルギー分野での国際共同研究の実施等、今後は幅広い分野における学術交流を大

学レベルで推進します。



九州大学、中国科学院大学、JSTからの参加者

Topics

13

國武豊喜特別主幹教授がボルドー大学より名誉博士号を授与

2017年5月4日(木)、フランス・ボルドー大学にて、國武豊喜特別主幹教授のボルドー大学名誉博士号授与式が行われました。

國武特別主幹教授は、「分子組織化学」の概念、並びに自己組織化を基礎とする材料科学の基盤を確立し、国内外において国際的な学術交流にも大きく貢献しています。その功績を称え、ボルドー大学より名誉博士号が授与されました。

授与式はManuel Tunon de Laraボルドー大学長の開会挨拶で幕を開け、続いて小田玲子ボルドー大学/フランス国立科学研究所(CNRS)リサーチダイレクターより國武特別主幹教授の業績の説明と賛辞の言葉が述べられました。また、久保総長はじめ複数の関係者からのお祝いのビデオメッセージが放映されました。

続いて、國武特別主幹教授より「From Biomimetics to Environmental CO₂Capture via Nanotechnology」と題した講演が行われ、参加者が真剣に耳を傾けていました。

最後に、ボルドー大学長から國武特別主幹教授への名誉学位記の授与が行われ、参列者から盛大な拍手が送られました。また、本学を代表して参列した渡邊公一郎副理事が祝辞を述べ閉幕となりました。

この名誉博士号授与をうけて、2017年5月29日(月)、國武豊喜特別主幹教授が久保総長に授与の報告を行いました。



開会の挨拶をするManuel Tunon de Laraボルドー大学長



名誉学位記授与の様子

Topics

14

5者による地域の国際化に関する連携協力協定を締結

2017年5月30日(火)、糸島市役所本庁舎で、本学と糸島市、セトル株式会社、株式会社西日本シティ銀行、株式会社西日本フィナンシャルホールディングスの5者による連携協力協定の調印式を行いました。この協定は、2016年10月に開通した伊都キャンパス南ゲート近くの泊カツラギ地区とその隣接地区を留学生や外国人研究者の受け入れ拠点とする糸島市策定の「糸島市九州大学国際村構想」に基づくもので、本学の留学生や外国人研究者を地域に温かく受け入れ、国際交流、国際教育、国際理解等を促進し、地域の国際化を図ることを目的としています。

調印式には、本学から久保千春総長、糸島市から月形祐二市長、セトル株式会社から一尾泰嗣代表取締役社長、株式会社西日本シティ銀行から谷川治道代表取締役(兼 株式会社西日本フィナンシャルホールディングス社長)らが出席しました。

協定締結後、久保総長は「九州大学は伊都キャンパスを『市民に開かれた都市型キャンパス』、『次世代技術の実証キャンパス』、『自然と歴史のオアシスキャンパス』、そして『環境エネル

「糸島市・九州大学・セトル(株)・(株)西日本シティ銀行、(株)西日本フィナンシャルホールディングスによる地域の国際化に関する協定」の締結及び「糸島市九州大学国際村構想」の発表



協定書を取り交わす出席者

ギーキャンパス』と位置付けて色々と取り組んでいる。今回このようにしてキャンパス周辺に『国際村』ができるることは本学にとっても大変素晴らしいことである。九州大学が教育・研究を通じて糸島の地域の国際化のために重要な役割と責任を果たしていきたい。』と述べました。

今後は、この協定を通じて産学官の5者連携により、魅力あふれる国際学術研究都市のまちづくりを目指していく予定です。

Topics

15

「オープンキャンパス2017」を開催

「オープンキャンパス2017」を2017年8月5日(土)から7日(月)の3日間、箱崎、伊都、大橋、病院の各キャンパスにおいて開催しました。台風の影響も懸念されましたが、当初予定どおりのスケジュールで開催し、合計1万4,000人を超す来場者がありました。

開催期間中、多くの制服姿の高校生らが志望する学部の説明会場に詰めかけ、学部・学科の紹介や模擬講義に熱心に耳を傾け、積極的に研究室や実験室を訪問する姿などが多く見られました。

6日(日)の伊都キャンパスでは、2018年4月に開講する共創学部による、概要説明、高校生と九大生による討論会、ビブリオバトル等を実施し、大勢の参加者を集めました。

その他、附属図書館や総合研究博物館の開放、カーボンニュートラル・エネルギー国際研究所(I²CNER)、伊都キャンパス学生寄宿舎の見学ツアー、キャリアデザイン制度の紹介、在学生

による相談コーナー、サークル紹介など様々な企画も実施し、来場者の真剣な様子が伺える熱気に満ちた3日間となりました。



討論会の様子(共創学部)

Topics

16

教育改革シンポジウムを開催

2017年7月10日(月)、椎木講堂において、九州大学教育改革シンポジウム2017(これからの大学院教育を考える～学術研究による課題解決を目指して～)を開催しました。

本シンポジウムは、博士課程教育リーディングプログラムの成果と九大生の研究力・潜在力を企業等に周知し、大学院教育への理解を深めるために企画したものです。

第1部では、文部科学省高等教育局大学振興課から井上睦子大学改革推進室長にご挨拶をいただいた後、安西祐一郎日本学術振興会理事長に「大学院は何のためにあるのか～大学院教育の将来展望～」をテーマに基調講演していただきました。

引き続き、博士課程教育リーディングプログラムの成果を、各プログラムコーディネーターとプログラム生が報告しました。最後に、佐々木一成副学長をファシリテーターとして、企業からは、

小野由理氏(株式会社三菱総合研究所オープンイノベーションセンター長)と石川正男氏(千代田化工建設株式会社技術本部長)にご登壇いただき、学生と教員を交え、社会が求める課題解決型人材についてパネルディスカッションを行い、それぞれの立場から熱い議論を交わしました。

第2部では、学生の研究発表の場として、ポスターセッションを開催し、本学の全ての学府から144点にのぼる研究ポスターが出品され、参加者による投票により評価を行いました。

その後の交流会では、久保総長から優秀者へ表彰状を手渡し、約420名の参加のもと、大盛況のうちに終了しました。



ポスターセッションの様子



安西祐一郎先生の基調講演

第10回 「資生堂 女性研究者サイエンスグランプリ」

次世代を担う指導的女性研究者の育成を目的とした、自然科学分野全般の研究者に対し研究助成を行う、株式会社資生堂によるグランプリです。

【受賞】

坂東 麻衣

大学院工学研究院
准教授

「惑星間を自由に行き来できる惑星間ハイウェイの研究」

織田 ゆかり

大学院工学研究院
助教

「潤滑界面の創製に向けた高分子グラフト層の新設計」

受賞のお知らせ

- 構造・階数：木造平屋建て
- 建築面積：376m²
- 延床面積：330m²
- 構造・階数：木造平屋建て
- 建築面積：588m²
- 延床面積：475m²



亭亭舎(左)と皎皎舎(右)

平成26年度から、福岡県が県産木材の需要拡大の推進をより一層図るため、木造・木質化に優れたモデル的な建築物を紹介し普及啓発することを目的として毎年実施されているものです。

【優秀賞】

福岡県木造・木質化建築賞

第3回

- 【優秀賞】
阿部 旦
工学部 2年



第35回久住山岳滑翔大会

- 指導教員
公益財団法人日本学生航空連盟と朝日新聞社が主催し、日本学生航空連盟久住滑空場にて開催されました。
- サポート
阿部 旦
工学部 2年
- サポーター
久住山岳滑翔大会実行委員会

北海道に伝わるコロボックルの伝説にちなみ、蔭の葉の下にある堅穴住居をイメージし、葉の下で自ら薪を焚いて上にある露天風呂に入つて大自然を感じる環境との共生を目指します。現在北海道大樹町の敷地内で実作の建設に向けて、作業を進めています。

Social Business Idea Contest (仕事も家庭も両立できる未来の実現のために) 「自然の中のスパ」

厚生労働省委託事業「イクメンプロジェクト」が主催する、男性の「家庭進出」をつなげ、男女ともに仕事も家庭もあきらめない社会にするための方策のアイデアを集めたコンテストです。(2017年3月実施)

【最優秀賞】

チーヴ「colobockle nest」

●メンバー

遠藤由貴 人間環境学府 修士2年

鹿嶋涉 人間環境学府 修士2年

谷口和広 人間環境学府 修士2年

西村宇央 人間環境学府 修士2年

華田健人 人間環境学府 修士2年

奥村光城 人間環境学府 修士1年

東大貴 工学部 4年

大谷芽生 工学部 4年

野原匠実 工学部 4年

末廣香織 大学院人間環境学研究院 准教授

●指導教員
末廣香織 大学院人間環境学研究院 准教授

●サポート
古里 さなえ 人間環境学府 修士2年

北海道に伝わるコロボックルの伝説にちなみ、蔭の葉の下にある堅穴住居をイメージし、葉の下で自ら薪を焚いて上にある露天風呂に入つて大自然を感じる環境との共生を目指します。現在北海道大樹町の敷地内で実作の建設に向けて、作業を進めています。

第7回LIXIL国際大学建築コンペ 「自然の中のスパ」

公益財団法人LIXIL住生活財団が主催する世界の建築系大学を対象に実施したコンペです。

第70回九大祭「好いとーよ。」

九大祭は、10月上旬に伊都キャンパスにて開催される九州大学最大規模のお祭りです。今年度のテーマは「好いとーよ。」。このテーマには、普段から九州大学を応援してくださる方々や、九大生としていつも励んでいるサークルや研究、そして誰よりも来場者の皆さまへの「好き」という思いを伝えたい、という決意が込められています。九大生によるテント企画や教室企画、ステージ企画に加え、ミスター九大・ミス九大コンテストや特別講義など、多くの方に楽しんでいただけるような数々の企画を用意しています。



- 日時:平成29年10月7日(土)~8日(日)
- 場所:九州大学伊都キャンパス(福岡市西区元岡744)
- お問い合わせ:info70@kyudaisai.jp
- Twitter:@kyudaisai
- Webサイト:<http://www.kyudaisai.jp/>



第14回芸工祭「Update Ver.14.0」

旧九州芸術工科大学の頃から数えて、今年で47回目となる芸工祭では、一般的なイベントに加えて、照明や音効、映像を使った前夜祭やインスタレーション、演劇、ファッショショナーなど、芸工祭ならではといった企画を行います。



また、今回の芸工祭は開催時期が早まるこもあり、より一層の改革改善が必要となりました。心機一転の意味を込めて、各企画がそれぞれのアップデートを行います。より洗練されたパフォーマンスを皆さんに楽しんでいただきたいと思います。



- 日時:2017年10月7日(土)~8日(日) ※6日(金)前夜祭
- 場所:九州大学大橋キャンパス(福岡市南区塩原4-9-1)
- お問い合わせ:第14回芸工祭実行委員会
- E-mail:geikofes14th.committee@gmail.com
- Twitter:@goken_14th
- Webサイト:<http://www.design.kyushu-u.ac.jp/~festival/2017/>

九大が楽しくわかる一日

九州大学 アカデミック フェスティバル 2017

ホームカミングデー

平成29年 10月21日 土 10:00~16:00

今回の目玉となる催しは、
●ニホニウムの森田浩介先生(理学研究院・教授)が登場するトークショー
●国際記念物遺跡会議(イコモス)副会長に就任している河野俊行先生(法学研究院・教授)による世界遺産登録に関するミニ講義
●昨今の熊本地震、九州北部豪雨などの被災地で支援活動を行っている杉本めぐみ先生(持続可能な社会のための決断科学センター・助教)による自然災害への備え等に関するミニ講義
●2018年4月に新設予定の「共創学部」の紹介と質問コーナーなどを予定しています。多くのご参加をお待ちいたします。

場所:九州大学 伊都キャンパス 椎木講堂等
(福岡市西区元岡744)

入場無料

お問い合わせ

九州大学総務部同窓生・基金課同窓生連携係
〒819-0395 福岡県福岡市西区元岡744
TEL 092-802-2147・2158

詳しい
内容は

九州大学アカデミックフェスティバルホームページ
http://kikin.kyushu-u.ac.jp/academic_festival/

検索

九州大学 アカデミックフェスティバル



世界のキャンパス

九州大学から世界へ!!
海外でどんなことを学び、どんな暮らしをしているのか。

素直な言葉で語っていただきました。



医学部保健学科
4年
柏木 若菜
(かしわぎ わかな)

留学国:韓国
留学先:西江大学校

会話中心の刺激的な授業に、
休日は仲間と遊んでリフレッシュ。
夢に近づいていると感じます。



授業でのひとコマ

他の外國人の友達を多く作ることができるます。私も実際に、そこでたくさんの韓国人の友達ができました。イベントでは、漢江^(※2)でチキンを食べたり、野球観戦をしたり、キャンプをしたりと多くの思い出を作ることができました。また、韓国は交通費・宿泊費が安いので、週末を使って気軽に旅行もできます。

私は今後の進路として、医療通訳を考えているため、通訳として欠かすことのできない語学力はもちろんのこと、自身の視野を広げる良い経験をし、貴重な時間を使い過ごすことができました。大学での4年間という短い時間、やりたいこ

とを行動に起こさなければ、すぐになくなってしまいます。交換留学を考えている方は、迷わず応募してください。

留学生の本音トーク

休日や放課後の過ごし方は?

大学のすぐ近く、新村は名門大学に囲まれた学生街で、ショッピングをしたりお酒を飲んだりと楽しめる環境です。



サークルの友人たちと

留学情報はこちら!

<http://www.isc.kyushu-u.ac.jp/intlweb/study>

*1 大学付属の韓国語教育機関
*2 ソウル市の中央を横切る全長51.4kmの川である

韓国語のスピーキング能力を伸ばしたい方は、迷わず西江大 学校をお勧めします。交換留学 生が韓国語を学びたい場合、語 学堂^(※1)で週5日・1日4時間の授 業が、週3日・1日2時間の授 業を選択できます。私は前者を 選択しました。西江大学校では、 特に会話の授業が有名ですが、 同じ級でも他の大学とはスピー キングのレベルが違うと何度か 耳にしました。また、実際に会話 が伸びずに他の大学の語学堂か らやつてきた友達が複数人いま す。会話中心の授業となっている

ため、自然とクラスの全員と仲 良くなり、毎日の授業が楽しみ でした。西江大学校には、「ハ グ」という交換留学生を助け、 一緒に遊びに行くサークルがあり ます。問題があれば助けてくれ、 毎週イベントが企画されている ので、参加することで韓国人やそ

の他の外国人の友達を多く作ることができるます。私も実際に、そこでたくさんの韓国人の友達ができました。イベントでは、漢江^(※2)でチキンを食べたり、野球観戦をしたり、キャンプをしたりと多くの思い出を作ることができました。また、韓国は交通費・宿泊費が安いので、週末を使って気軽に旅行もできます。

私は今後の進路として、医療通訳を考えているため、通訳として欠かすことのできない語学力ははもちろんのこと、自身の視野を広げる良い経験をし、貴重な時間を過ごすことができました。大学での4年間という短い時間、やりたいこ



クラスメイトと学祭にて



大学情報
西江大学校

ソウルの新村に位置する西江大 学校は、1960年に設置されたカ トリック系の大学で、ソウル大学校、 延世大学校、高麗大学校などと並 ぶで名門大学と称される大学で す。また、日本の大学でいう上智大 学とも言われています。他の大学に 比べ、出席チケットが厳しい、席が決 まりっている課題が多い、高校と同じ ようなチャイムが鳴る、などの理由 から「西江高校」などと言われるこ ともあります。その他の大学と比べ ると、キャンパスは小さく、学祭など は大きく行いませんが、交換留学生 への援助は手厚いです。また、韓國 の大学は基本的に山に建てられて いるため毎日が登山です。しかし、 西江大学校は坂もなく、コノバクト な造りであるため、キャンパス内 での移動も便利です。



九州大学で学ぶ留学生の日常を紹介するコーナーです。
今回は韓国から留学中の成儒彬(ソン ユビン)さんに
九大の魅力や日々の過ごし方についてインタビューしました。

成儒彬 (ソン ユビン)さん
大学院人間環境学府行動システム専攻 修士2年

高校一年生のときに退学。独学で日本語を勉強し、留学を目指す。
2012年に九州大学文学部人文学科に入学、学部卒業後に大学院人間環境学府へ。韓国語講師のアルバイトをしながら日々、研究に励む。

Q 留学のきっかけは?

高校中退後に独学で大学受験を目指していました。語学に興味があるので留学すれば「語学」と「専門分野」の2つが同時に学べる、と思ったんです。インターネットで日本のwebラジオを聴きながらリスニングを磨き、文法と漢字はテキストを1冊ずつ買って繰り返し読みました。入試直前に塾へ通い始めたとき、日本人講師と言葉が通じたときはすごく嬉しかったですね。

Q どんな研究をされていますか。

学部時代は日本語と英語で書かれた文字の印象を比較していました。例えば日本語より英語のロゴを「オシャレ」と思ったり、「高級だ」と感じたりするのはなぜか?といったテーマです。大学院では日本人が韓国語を話すときに、何が障壁になっているか、発音と聞き取りやすさの関係など、語学に関する調査をいろんな方法で行っています。

Q サークル活動はしていますか。

入学してすぐに「九大混声合唱団」とアコースティックギターのサークル「unplugged(アンプラグド)」に入りました。歌やギターが好きで、今までずっとやってみたかったことを九大で実現できました。友人と3人で周船寺のカフェでアコースティックライブを開催できたことは大切な思い出です。

My
Favorite



アコースティックギター

唯一、弾き語りができるのは松任谷由実の「卒業写真」です。周船寺のカフェライブでは中島みゆきの「糸」を歌いました。

登山

福岡は街にも自然にも近く住みやすいところが大好きです。休日には友人と山登りへ出かけることもあります。空気がおいしい!



揚げ物

とかつや唐揚げが好きです。「ナスの天ぷら」は韓国で見たことがなく、食べてみたらおいしくて、学食で見つけたらいつも食べています。

Q どうして九州大学に?

心理学を専門的に勉強したかったんです。九州大学には私が興味のある「感性心理学」「知覚心理学」「計量心理学」を専門に研究している先生がいらっしゃいます。今はその先生のもとで研究を進めていますが、博士号をとったら他の大学で学び、最終的には九州大学へ戻りたいと思っています。

Q 夢中になっていることはありますか。

ずっと韓国語講師の仕事をしてみたくて、学部2年生から本格的にアルバイトを始めました。今では姪浜と中洲の2カ所で働いています。講師として気を付けているのは、韓国語の表現が日本人にとって難しかったとき、「日本語だったらどうなるか」と、受講生と一緒に考えることです。韓国好きな方が多く、私以上に韓国へ通っているみたいですよ(笑)。

Q 九大生の印象は?

自分の意見をはっきりと言ってくれる人が多いですね。日常の些細な疑問でも「なんでだろう」と尋ねると、面倒がらずに議論してくれます。例えば「なぜ駐輪場はお金が必要なのか」といった素朴な疑問にははっきりとした答えは出ませんが、本音で語り合えるその時間が貴重だと感じています。



九州大学基金

—未来を切り拓くリーダーの育成—



椎木講堂

寄附者
ご芳名

九州大学基金の趣旨に賛同いただき、多大なご支援を賜り、誠にありがとうございます。
本号では、平成29年4月6日から7月14日までに寄附申し込みいただいた皆様のご芳名(五十音順・敬称略)を掲載させていただきます。今後とも九州大学基金をよろしくお願い申し上げます。

新永中永長豊友鶴辻	陳田田田竹田空周島佐佐佐相坂坂小小木加梶岡大上岩岩井伊伊池荒	個人
津島島島尾村池崎井	中中中宮井藤田藤々川良本本林林戸藤田崎坪田田上藤藤尻木	秋
勝芳祥英貴亜桂直正二彦好夫史紀子樹人	里文健聰明道仁真賢吉成治裕貴美繁隆和哉悟利秀輝敏貴	和幸晴正麻緑政和正早苗啓二郎
強	木之	公二郎

クレジット決済による継続的な支援者の皆様
企業・団体など
株式会社LINK
(計1企業等)

新永中永長豊友鶴辻	陳田田田竹田空周島佐佐佐相坂坂小小木加梶岡大上岩岩井伊伊池荒	個人
津島島島尾村池崎井	中中中宮井藤田藤々川良本本林林戸藤田崎坪田田上藤藤尻木	秋
勝芳祥英貴亜桂直正二彦好夫史紀子樹人	里文健聰明道仁真賢吉成治裕貴美繁隆和哉悟利秀輝敏貴	和幸晴正麻緑政和正早苗啓二郎
強	木之	公二郎

新永中永長豊友鶴辻	陳田田田竹田空周島佐佐佐相坂坂小小木加梶岡大上岩岩井伊伊池荒	個人
津島島島尾村池崎井	中中中宮井藤田藤々川良本本林林戸藤田崎坪田田上藤藤尻木	秋
勝芳祥英貴亜桂直正二彦好夫史紀子樹人	里文健聰明道仁真賢吉成治裕貴美繁隆和哉悟利秀輝敏貴	和幸晴正麻緑政和正早苗啓二郎
強	木之	公二郎

新永中永長豊友鶴辻	陳田田田竹田空周島佐佐佐相坂坂小小木加梶岡大上岩岩井伊伊池荒	個人
津島島島尾村池崎井	中中中宮井藤田藤々川良本本林林戸藤田崎坪田田上藤藤尻木	秋
勝芳祥英貴亜桂直正二彦好夫史紀子樹人	里文健聰明道仁真賢吉成治裕貴美繁隆和哉悟利秀輝敏貴	和幸晴正麻緑政和正早苗啓二郎
強	木之	公二郎

新永中永長豊友鶴辻	陳田田田竹田空周島佐佐佐相坂坂小小木加梶岡大上岩岩井伊伊池荒	個人
津島島島尾村池崎井	中中中宮井藤田藤々川良本本林林戸藤田崎坪田田上藤藤尻木	秋
勝芳祥英貴亜桂直正二彦好夫史紀子樹人	里文健聰明道仁真賢吉成治裕貴美繁隆和哉悟利秀輝敏貴	和幸晴正麻緑政和正早苗啓二郎
強	木之	公二郎

新永中永長豊友鶴辻	陳田田田竹田空周島佐佐佐相坂坂小小木加梶岡大上岩岩井伊伊池荒	個人
津島島島尾村池崎井	中中中宮井藤田藤々川良本本林林戸藤田崎坪田田上藤藤尻木	秋
勝芳祥英貴亜桂直正二彦好夫史紀子樹人	里文健聰明道仁真賢吉成治裕貴美繁隆和哉悟利秀輝敏貴	和幸晴正麻緑政和正早苗啓二郎
強	木之	公二郎

新永中永長豊友鶴辻	陳田田田竹田空周島佐佐佐相坂坂小小木加梶岡大上岩岩井伊伊池荒	個人
津島島島尾村池崎井	中中中宮井藤田藤々川良本本林林戸藤田崎坪田田上藤藤尻木	秋
勝芳祥英貴亜桂直正二彦好夫史紀子樹人	里文健聰明道仁真賢吉成治裕貴美繁隆和哉悟利秀輝敏貴	和幸晴正麻緑政和正早苗啓二郎
強	木之	公二郎

中中中長中永中中中中中永中中中中永豐富富利豐德德藤藤寺寺デ竈都常堤土千玉田谷谷田田田田田田
 村村嶺道野島島倉川川井田田崎根島永地田園フ川留松屋代井上口中中中中中中中
 間伸栄ラ祐田泰
 辰大松優智浩光誠結秀幹政文清敏真知貴利隆寬武哲玲賢正安浩成ン洋寛卓司洋麻崇陽嘉康雅久匡慎欽郁
 郎輔三美司昌男之一雄人香一行龜之郎雄土二子一純一宏コ治巨哲莉史一和裕子敏一二夫
 代郎夫
 真子

平平平平一日日久樋東原原原濱浜花花服長橋萩芳野野能二西西西錦西西西新奈楨奈名永中中中中
 未田川井柳ツ高高高野口田井島崎田田部谷本原賀村島美村原園織川岡岡岡納良崎良本吉山山山村村
 (荻庄貴正あ智勝達孝勝節裕正廣修俊朱久哲純陽久雅秀聖弘正直亮直加眞誠一宏光正幹剛弘裕隆義素雅
 晃久保治功美美子規子也美枝大治孝平子寛彦太志通幸介希人治昭恒雄人雄志幸文光子子
 温子
 由紀子

宮三峯三三丸真的松松松松松松松益前前堀ホ布古吉吉吉古船舟渕藤藤伏藤藤福福福深廣廣廣
 蘭村松重浦山鍋場山山本本村村根永下木木浦田田田内袋谷屋谷市市津越上吉本見川江原留島沢沢林戸田
 久恭和逸徹明哲美真文孝順香美健直美敏千健美幸幸享康嘉善謙清成政正昭明秀龍真豊嗣一久郁厚進賢洗達
 信子久孝朗夫哉和介宏司織南一哉樹浩恵太穂弘江史之ア之明治美義幸人明博彦昭史里五雄大美志二雄
 信
 ドリュー

吉吉横横湯山山
 田住山山地本本西中田田田下下口口浦父ヶ永河藤山山本本野迫迫岡井山松本上上上上上上上上上上上上
 濱内裕恍
 慶潤宜武紘正正博征英和義弘謙治法輝修良規幸宏泰雅有桂茂玲靖俊之次明賢泰朱順裕文光修晃三健英誠
 史子生志一明昭幸二道豊郎綱二利子臣一久幸勉一醇樹子文紀宏夫郎一徳雄治啓一淳洋治一
 郎
 ジ
 李米吉吉吉吉吉
 津村松永田
 海文康太幸光龍誠
 ゆかり
 興三一
 WEI LEONG

●お問い合わせ
九州大学総務部同窓生・基金課
 〒819-0395 福岡市西区元岡744
 TEL:092-802-2150
 E-mail:k-kikin@jimu.kyushu-u.ac.jp
 Webサイト:<http://kikin.kyushu-u.ac.jp/>

1外 118名	渡 渡 渡 六 COH
1外 118名	渡 渡 渡 六 COH
外 匿名希望等 (計555名)	渡 渡 渡 六 COH

南京同窓会より伊都キャンパス植樹プロジェクトへ ご寄附いただきました

平成29年5月12日、中国南京市にて南京同窓会が開催され、本学からは久保総長、渡邊国際部長らが出席しました。

本同窓会の開催にあたり、九州大学基金「伊都キャンパス植樹プロジェクト」への寄附のお申し出があり、当日は九州大学北京オフィス所長の宋敏氏より寄附目録の贈呈があったほか、7つの個人・団体よりご寄附をお受けしました。

同窓生からは、日本留学時の綺麗な「花見」が思い出に残っていること、桜が満開の伊都キャンパスを大いに楽しみにしていることなどのお言葉を頂戴しました。

寄附者ご芳名(順不同、敬称略)――

在中国九州大学同窓会 九州大学中国同窓会江蘇分会

地盤工学研究室中国留学生 周銘 谷學軍 喻小念、李玉萍、喻弘歴、喻博文

91年农博王志偉ご一家 王志偉、熊瑞芳、王一丹 陳湧、秦陽、陳露晞(中国・上海)



寄附目録贈呈の様子

椎木正和感謝コンサートを開催

平成29年7月22日(土)、本学伊都キャンパス椎木講堂コンサートホールにおいて、椎木正和感謝コンサートを開催しました。

この催しは、平成28年7月16日に逝去されました椎木講堂の寄贈者である椎木正和氏のご功績を偲び、ご厚情に感謝するため、国立大学法人九州大学、九州大学病院、九州大学ユヌス＆椎木ソーシャル・ビジネス研究センター、公益財団法人九州交響楽団、公益財団法人アルゲリッヂ芸術振興財団、築上町、公益財団法人佐賀国際重粒子線がん治療財団、日本赤十字社福岡赤十字病院の8団体からなる「椎木正和感謝コンサート実行委員会」が主催し開催したものです。

コンサートでは、はじめに実行委員長である久保総長より挨拶があり、椎木正和氏が椎木講堂の建設過程で何度も本学に足を運ばれたことや、クラシック音楽に対して強い思いをもたれていたことなどを紹介しました。

続いて、別府アルゲリッヂ音楽祭総合プロデューサー伊藤京子氏によるピアノ「ショパン／バラード第一番 ト短調 作品23」、九州交響楽団音楽監督小泉和裕氏指揮、九州交響楽団による管弦楽「ドヴォルザーク／交響曲第9番 ホ短調 作品95『新世界より』」が演奏されました。

椎木正和氏は、「クラシック音楽に縁もゆかりもない方々にも聴いてもらい、楽しんでもらい、生活の一部に感じてもらえるようなコンサートを提供しよう」との思いから、九州交響楽団の室内楽を中心とした無料のロビーコンサートを平成元年から平成20年まで200回にわたって開催されました。また、地方からの芸術文化発信に尽くす伊藤京子氏の思いに共感し、アルゲリッヂ芸術振興財団の理事として財団の活動を支援されました。「別府アルゲリッヂ音楽祭」は本年5月の開催で19回目を迎え、国内外にファンを増やし別府の町に根付いています。

今回の椎木正和感謝コンサートは椎木正和氏の思いに応えられるような催しを目指し、椎木正和感謝コンサート実行委員会各団体からの招待者のほか、地域の皆さまや音楽団体、近隣の中学校、高等学校など多くの方々をお招きし、当日は約1,500人の来場者が素晴らしい演奏を満喫していました。



九州交響楽団の演奏

〈お問い合わせ先〉九州大学総務部同窓生・基金課基金係 TEL:092-802-2150 E-mail:k-kikin@jimu.kyushu-u.ac.jp

九州大学医学部独自の奨学金『田中 潔奨学金』設立

本学は、昭和40年から51年まで医学部医学科薬理学講座教授を務められた、故・田中 潔先生のご遺族からのご寄附に基づき、九州大学医学部独自の奨学金としまして平成28年7月13日に『田中 潔奨学金』を設立いたしました。

本奨学金の給付対象は、医学部医学科に入学した学生で、人間性が豊かで高い志を持ち、かつ人格的に優れる者うち、学業に優れ、経済的理由により修学が困難と認められる者であり、昨年度より本学にて学生支援のために活用させていただいております。

今回のご寄附により、医学部学生の修学等の支援を行うことができ、学生もこの奨学金を励みに、更に学業に邁進してまいります。ご寄附いただきましたご遺族の方に厚く御礼申し上げます。



故・田中 潔先生



住本医学研究院長とご令嬢の田中 昭子様



農学部同窓会 定例会議 さよなら「箱崎農学部」同窓会

平成30年初夏、いよいよ農学部の伊都キャンパス移転が開始されます。そこで、平成29年5月27日（土）、農学部5号館117教室にて開催された農学部同窓会評議員会・総会に続き、農学部との共催で「さよなら『箱崎農学部』同窓会」を開催しました。

百年の長きに亘りお世話になつた箱崎農学部キャンパスの名所旧跡と貴重樹木をめぐるツアーや、懐かしの研究室再訪、古き良き時代から近年までの農学部映像スライドショーといったイベントが実施され、五月晴れの下、約250名の同窓生で賑わいました。

その後、理農食堂で開催された

懇親会は、和田光史同窓会会長（元総長、昭和26年・農芸化学科卒）による乾杯で幕を開けました。160名近くの同窓生が集い、食堂内や農学部1号館前のテントにて思い出話に花を咲かせる賑やかなひと時となりました。

箱崎キャンパスでの開催が最後となる平成30年5月19日（土）の同窓会では、さらに充実した企画を盛り込んだ「さよなら『箱崎農学部』同窓会」の最終回が実施されます。同窓生の愛校心を伊都キャンパスへと繋げることができるように、引き続き同窓会活動を盛り上げていきたいと思います。



農学部キャンパスツアー



懇親会の様子

農学部同窓会理事 青木智佐(平成2年・農学科卒)

〈連絡先〉九州大学農学部同窓会事務室

TEL・FAX:092-632-7881 E-mail:dousou@grt.kyushu-u.ac.jp

九大会員の皆様へ～新たな特典が加わりました～

kinko's(キンコーズ) <http://www.e-creous.com>

コピー、ポスター、製本など身近な印刷物はお店にご相談ください。
営業マンが学内まで伺うサービスも行っています。

特典 会計金額より**10%割引**。九州・中四国地区の店舗にて利用可能です。
(注文時に会員証を提示してください。また一部対象外の商品があります。)



kinko's九大伊都店
TEL:092-834-2527

元気くらぶ伊都 Tel 092-331-1000

<http://genki-ito.jp>(伊都の湯どころ及び伊都ダイニング) <http://www.everydayfitness.jp>(EVERYDAY FITNESS)

伊都の湯どころ **特典** 温浴料金(大人平日560円、土・日・祝660円)を**100円割引**

EVERYDAY FITNESS **特典** 入会金(通常5,400円)が**無料** 初月1か月分の会費(6,480円)が**半額**館内で利用可能な**クーポン券を1年(12か月)分プレゼント**

伊都ダイニング **特典** 人数に応じて**「九州大吟醸」又は「お勧めワイン」をプレゼント**
無料送迎バスのエリアを拡張
次回利用可能な**食事券(200円分)**を九大会員の人数分プレゼント



伊都の湯どころ 女性露天風呂

太陽の皿 Tel 092-332-8557 <http://www.taiyonosara.com>

特典 食事代(ビュッフェ大人1,900円、小人1,200円)を**200円割引**

この他にも多くの特典を用意しておりますので、是非ご入会いただきますようお願い申し上げます。



ご利用の際は会員証をご提示ください

九大会員のお申込みはWebサイトからお願いします

<http://kikin.kyushu-u.ac.jp/> 九大会員 検索

*各特典については、ご利用条件などをご確認の上ご利用ください。



EVERYDAY FITNESS
フィットネスジム、屋内温水プール



法学部東京同窓会 新卒者歓迎会



地質学科同窓会(能古会) 東京支部



薬友会関東支部総会・講演会・懇親会



Alumni Association

同窓会だより

法学部東京同窓会では、新入会員歓迎会を、3年前から九大東京オフィスにて開催しています。今年も4月22日(土)に開催し、合計34名が参加しました。

開会にあたり、先輩各位からは次のような挨拶がありました。

古川 治次 同窓会長(昭和37年卒)
 「毎年首都圏の新卒参加者が増加している事は大変喜ばしく、歓迎します。是非とも本同窓会先輩各位のネットワークを活用して、人脈構築に役立ててください。」

櫻井 龍子 副会長(昭和44年卒・前最高裁判所判事)

「皆様の溢刺とした様子が、数十年前労働省に勤務開始した自分を蘇らせて懐かしく思います。」

古川 貞一郎 顧問(昭和33年卒・元内閣官房副長官)

「謙虚な気持ちと姿勢を忘れずに、幅広い視野を持ち、難しい仕事に果敢に挑戦することが肝要です。上位者への報告の際は簡潔に、且つ結論を明確に説明する事が大切です。」

新卒会員15名からも自己紹介と抱負が語られ、和気藹藹とした懇談と会食は閉会しました。



集合写真

法学部東京同窓会理事・事務局次長 田崎 康夫(昭和44年・法学部卒)
 〈連絡先〉Email: kdhtokyo@horae.dti.ne.jp

平成29年5月20日(土)、学士会館にて能古会(理学部地質学科・地球惑星科学科同窓会)総会を開催し、36名が参加しました。

O B講演では、宇宙技術開発㈱の長谷川純一先生(平成25年・地球惑星科学専攻修了)と、東京海洋大学の山中寿朗教授(平成6年・地質学科卒)にお話を伺いました。

長谷川先生からは、宇宙飛行士インストラクターと国際宇宙ステーション日本実験棟の運営監制業務に従事された、宇宙開発に係る経験を元に、大変興味深いお話をありました。

また、山中先生からは、近年生命誕生の場として注目されている海底熱水系の研究について、錦江湾での世界最浅の化学合成群集サツマハオリムシ発見の経緯が紹介されました。参加者は、両先生のお仕事や研究に熱心に耳を傾けていました。

懇親会では、O Bより同窓会誌「能古」の第1号(昭和32年)と第2号(昭和33年の紹介があり、本会の歴史に感嘆の声が上がりました。今後も能古会での交流を通して九大地質学科・地球惑星科学科のネットワーク拡大の活動を進めていきたいと思います。



総会終了後の集合写真

能古会東京支部幹事 平倉 瑠子(平成25年・理学部地球惑星科学科卒)
 〈連絡先〉同窓会事務局(東京支部 河野 啓幸(昭和54年・地質学科卒))yoshiyuki_kawano@jpower.co.jp

第一部の総会に続き、第二部の講演会は(財)薬剤師研修センター認定研修会として、次の3題の講演をいただきました。

(1)「アカデミックシーズの実用化に向けた取り組みについて」国立研究開発法人 日本医療研究開発機構(A M E D)・新留徹広さん(昭和58年卒)

(2)「脳を制御する新しい役者 グリア細胞」山梨大学・小泉修一さん(昭和62年卒)

(3)「B i g d a t a は 医 薬 品 開 発 を 変 え る か」欧州医薬品庁(E M A)での開発相談の経験を通じて、「厚生労働省・浦克彰さん(平成17年卒)

第三部の懇親会は、田中郁夫様(昭和34年卒)の乾杯で和やかに始まり、次年度当番幹事の挨拶、「松原に」合唱の後、盛会のうちに終了しました。

お蔭様で、講演会105名、懇親会92名、総数110名の方にご参加いたしました。ありがとうございました。ありがとうございました。



懇親会での乾杯の様子

九大薬友会関東支部 平成29年度総会当番幹事代表 別府 学(昭和62年・薬学部製薬化学科卒)
 〈連絡先〉九大薬友会関東支部事務局 E-mail: yakuyu-kanto@kyudai.jp
 〈関連Webサイト〉九大薬友会関東支部Webサイト <http://kyushu-yakuyu-kanto.la.coocan.jp/>



経済学部同窓会福岡支部総会・特別講演会・懇親会

平成29年6月9日(金)、ソラリア西鉄ホテルにおいて、経済学部同窓会平成29年度福岡支部総会を開催しました。総会では、前年度事業報告案・決算報告案、本年度事業計画案・役員選任案が審議され、いずれも原案通り承認されました。

続いて特別講演会では、久保千春総長より、「九州大学の現状とこれから」という演題でご講演いただきました。平成30年度に移転完了を予定する九州大学の変貌ぶりをわかりやすくご紹介いただきました。

懇親会は、昨年の参加者数を65名上回る215名が参加し、盛況でした。貫正義同窓会長(福岡支部長、昭和43年卒)の開会挨拶に続いて久保総長に来賓代表挨拶を頂戴しました。乾杯のご発声は、原田溥先生(昭和30年卒)に賜りました。その後しばらく歓談した後、多くのご来賓を紹介させていただきました。



貴会長と久保総長



「松原に」合唱の様子

長に就任された村上英之氏(昭和58年卒)に博多手一本を入れてもらい、平成29年度総会は閉会となりました。

平成29年8月1日(火)、ハートンホテル北梅田にて、夏季ビアパーティーを開催しました。

第一部の公開講演会では、一般の方にも多くご参加いただき、70名の参加がありました。医学研究院の林克彦教授により、「卵子形成のなぞに迫る、幹細胞からの卵子再生」というタイトルで、難しいお話を分かりやすくお話しいただきました。

会場からも多くの質問が出て、有意義な講演会になりました。

第二部の総会・懇親会は、北野嘉文さん(昭和57年・経済学部卒)の司会で進行し、上野至大同窓会長(昭和42年・工学部卒)のご挨拶、九大から玉上晃理事・事務局長のご挨拶のあと、中野健二郎同窓会副会長(昭和42年・経済学部卒)



講演する林教授



「松原に」合唱

卒)の乾杯のご発声で幕を開けました。今回の参加者は76名(平成卒22名・昭和卒54名)で、うち女性は3名でした。平成27年度卒業生から、会社を定年退職された方まで、新入会員13名全員からスピーチをいただきました。「初めて参加したが、楽しい会なのでこれからも参加する」というコメントもありました。

恒例のコールアカデミーOBによる合唱のあと、応援団OBのリードの下、全員で「松原に」を唄つて終了しました。

関西同窓会 夏季ビアパーティー

関西同窓会幹事長 岡 政徳(昭和44年・法学部卒)
 <連絡先> E-mail: osaka-office@jimu.kyushu-u.ac.jp



表紙について

福岡県糟屋郡篠栗町にある「篠栗九大の森」。2010年に農学部附属福岡演習林の西端に開園され、篠栗町と共同で整備・管理を行っています。最近ではラクウショウが植えられた「水辺の森」が新聞や雑誌などで取り上げられ、多くの人々が訪れています。夏は田んぼへ水を送るため、池の底が見えるほど水位が下がりますが、稻刈りが終わった後の秋には再び水が戻り、幻想的な風景が見られるようになります。(2016年12月撮影)

住所変更ほか、発送についてのお問い合わせは、封筒記載の連絡先へお願いします。

九州大学広報室 TEL:092-802-2130 E-mail:koho@jimu.kyushu-u.ac.jp

九州大学学生後援会 TEL:092-802-5968 E-mail:gaggkouenkai@jimu.kyushu-u.ac.jp

九州大学同窓会連合会 TEL:092-802-2158 E-mail:sycdo-rengo@jimu.kyushu-u.ac.jp